

## まちづくりアンケート調査 結果報告書

現在、本町では「第6次真室川町総合計画」の後期基本計画（令和8年度から12年度）と「第3期真室川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定作業を進めています。そこで、各分野における現状の評価や、まちづくりを進めていくうえでの課題などを把握し、計画に反映させていくため、アンケート調査を実施したものです。

### (1) 調査概要

- 調査対象：町内に居住する15歳以上の男女1,000人
- 抽出方法：無作為抽出（住民基本台帳より）
- 調査時期：令和7年8月8日～9月19日
- 調査方法：郵送配布・郵送回答、オンライン回答

### (2) 回収結果

- 回収数：n=428通（42.8%）

- アンケートの精度：必要サンプル数の算出式

$$n \geq N \div [ \{ e \div 1.96 \}^2 \times (N-1) \times 4 ] + 1$$

- ・N=母集団の数（調査対象者数 R7.7末人口6,355人）
- ・e=標本誤差5%（0.05）
- ・n=必要サンプル数
- ・1.96は上記の信頼係数と標本誤差を設定した場合に用いる統計上の定数
- ・計算の結果、n=360.474…（必要サンプル数）となり、必要サンプル数（回答数）は「360名（36.0%）」と必要となります。

### (3) 調査結果の留意点

- 各設問の回答比率（%）は小数点以下2位を四捨五入し、小数点第1位を標記します。このため、全ての割合の合計が100%にならないことがあります。また、複数回答の設問では、全ての割合の合計が100%を超えることがあります。

#### ※前回調査

「第6次真室川町総合計画」の前期基本計画等を策定するため実施しました。

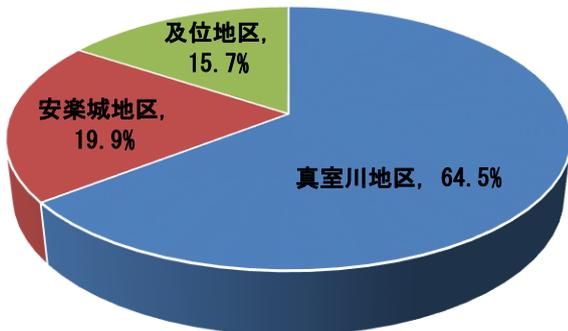
調査時期：令和2年3月5日～19日 回収数：465通

回答の変化等を把握するため、一部の設問で前回調査のグラフ等を掲載しています。

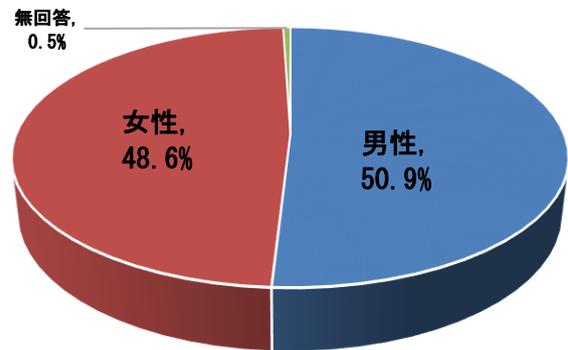
**はじめに あなたご自身についてうかがいます。**

あなた（回答者）ご自身のことについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号を選んで1つに○を付けてください。

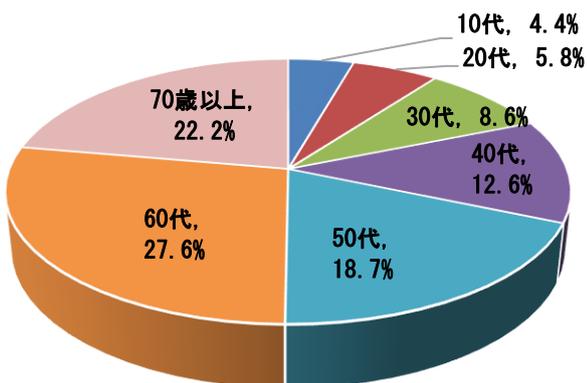
1) 居住地 (n=428)



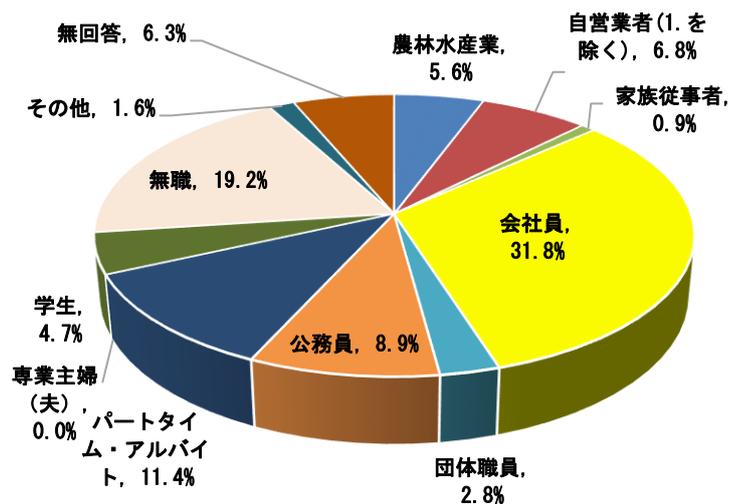
2) 性別 (n=428)



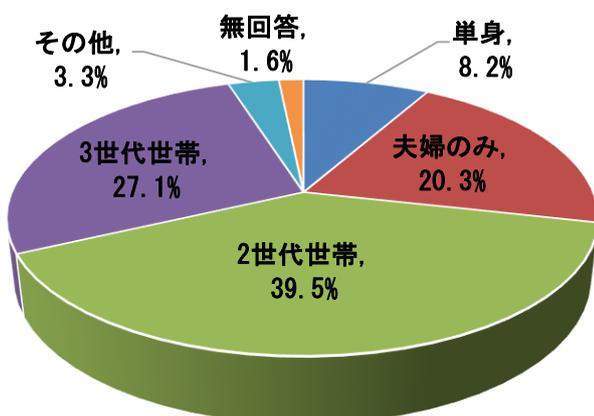
3) 年齢 (n=428)



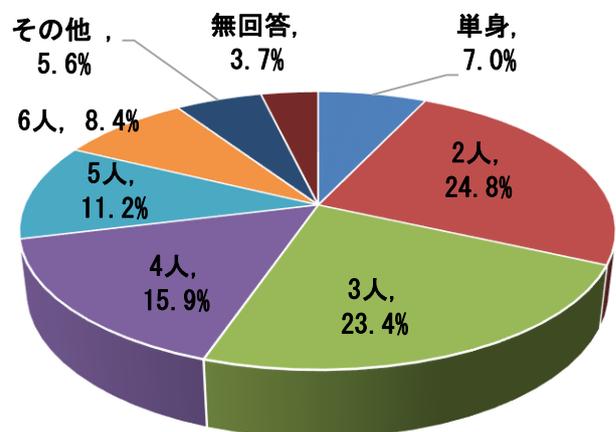
4) 職業 (n=428)



5) 世帯構成 (n=428)



6) 世帯人数 (同居する方のみ) (n=428)



## 1. 町の現状と今後の取組みについてうかがいます。

問1. 真室川町ではこれまで各分野にわたる様々な施策・取組みを進めてきました。以下の項目について現状の満足度と、今後の重要度をおたずねします。

施策の満足度について、全体・性別では「DXの推進」が高く、「商工業振興」の満足度が低くなっています。また、性別で見ると男性は「次世代を担う人材の確保」、女性は「商工業振興」の満足度が低くなっています。

年齢別で見ると、若年層は「DXの推進」、高齢層は「学校教育の充実」、「健康福祉の充実」、「保健医療の充実」の満足度が高い状況にあります。

また、年齢別の満足度が低い施策をみると、「次世代を担う人材の確保」、「商工業振興」、「多様な主体の社会参画の推進」が低くなっています。

### 施策推進に対する現状の満足度について（全体、性別、年齢）

上位・下位3位 単位：%

		満足度が高い施策			満足度が低い施策		
		第1位	第2位	第3位	第1位	第2位	第3位
全体		DXの推進 44.8	生活安全の確保 40.1	健康福祉の充実 39.7	商工業振興 14.5	次世代を担う人材の確保 16.6	多様な主体の社会参画の推進 17.0
性別	男性	DXの推進 42.7	健康福祉の充実 38.5	生活安全の確保 38.1	次世代を担う人材の確保 14.7	商工業振興 16.0	多様な主体の社会参画の推進 16.5
	女性	DXの推進 47.6	子育て支援の充実 43.8	交流の促進 43.8	商工業振興 13.0	林業振興 17.3	多様な主体の社会参画の推進 17.8
年齢	10-20代	DXの推進 49.0	交流の促進 45.7	多様な学びの機会の充実 41.6	次世代を担う人材の確保 17.8	多様な主体の社会参画の推進 22.5	健全な行財政運営 24.5
	30代	DXの推進 56.7	交流の促進 51.3	生活安全の確保 48.6	商工業振興 10.8	健全な行財政運営 10.8	多様な主体の社会参画の推進 13.5
	40代	学校教育の充実 57.4	子育て支援の充実 46.3	DXの推進 44.4	商工業振興 13.0	次世代を担う人材の確保 18.5	健全な行財政運営 18.5
	50代	DXの推進 53.8	健康福祉の充実 40.1	学校教育の充実 38.8	多様な主体の社会参画の推進 13.8	自然環境の保全・活用 13.8	林業振興 15.0
	60代	健康福祉の充実 45.8	DXの推進 44.9	生活安全の確保 44.0	商工業振興 12.7	多様な主体の社会参画の推進 15.3	商工業振興 16.1
	70歳以上	健康福祉の充実 38.9	保健医療の充実 37.9	生活安全の確保 37.9	商工業振興 10.6	農業振興 12.6	自然環境の保全・活用 12.7

割合（%）については、「満足」「やや満足」の合計値としています。

今後重視する施策について、全体において「保健医療の充実」が第1位となっています。性別ごとでは男性では「克雪・利雪の推進」、女性では「保健医療の充実」が第1位となっています。

年代でみると若い世代では「子育て支援の充実」を重視し、40代以上は「保健医療の充実」や「健康福祉の充実」が多く、健康志向が高まっている状況となっています。

また、いずれの年代でも「克雪・利雪の推進」を重視する施策の上位に位置しています。また、30代以上においては、「交通ネットワークの整備」も重視する施策上位に位置している状況となっています。

### 今後重視している施策について（全体、性別、年齢）

上位5位 単位：%

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体		保健医療の充実 69.1	克雪・利雪の推進 67.3	健康福祉の充実 65.4	交通ネットワークの整備 63.8	子育て支援の充実 61.2
性別	男性	克雪・利雪の推進 67.4	保健医療の充実 66.5	交通ネットワークの整備 64.3	商工業振興 62.4	健康福祉の充実 61.9
	女性	保健医療の充実 72.2	健康福祉の充実 69.3	克雪・利雪の推進 67.3	交通ネットワークの整備 63.4	子育て支援の充実 60.6
年齢	10-20代	子育て支援の充実 54.4	克雪・利雪の推進 53.0	交流の促進 53.0	DXの推進 50.4	保健医療の充実 49.7
	30代	子育て支援の充実 81.1	保健医療の充実 73.0	健康福祉の充実 73.0	克雪・利雪の推進 64.8	交通ネットワークの整備 64.8
	40代	保健医療の充実 77.8	克雪・利雪の推進 77.8	健全な行財政運営 77.8	交通ネットワークの整備 77.7	次世代を担う人材の確保 76.0
	50代	健康福祉の充実 76.3	保健医療の充実 73.8	克雪・利雪の推進 70.1	商工業振興 70.1	交通ネットワークの整備 66.3
	60代	克雪・利雪の推進 75.4	保健医療の充実 72.0	交通ネットワークの整備 68.6	健康福祉の充実 67.8	生活安全の確保 60.2
	70歳以上	保健医療の充実 64.2	克雪・利雪の推進 56.9	健康福祉の充実 56.8	交通ネットワークの整備 53.7	農業振興 53.7

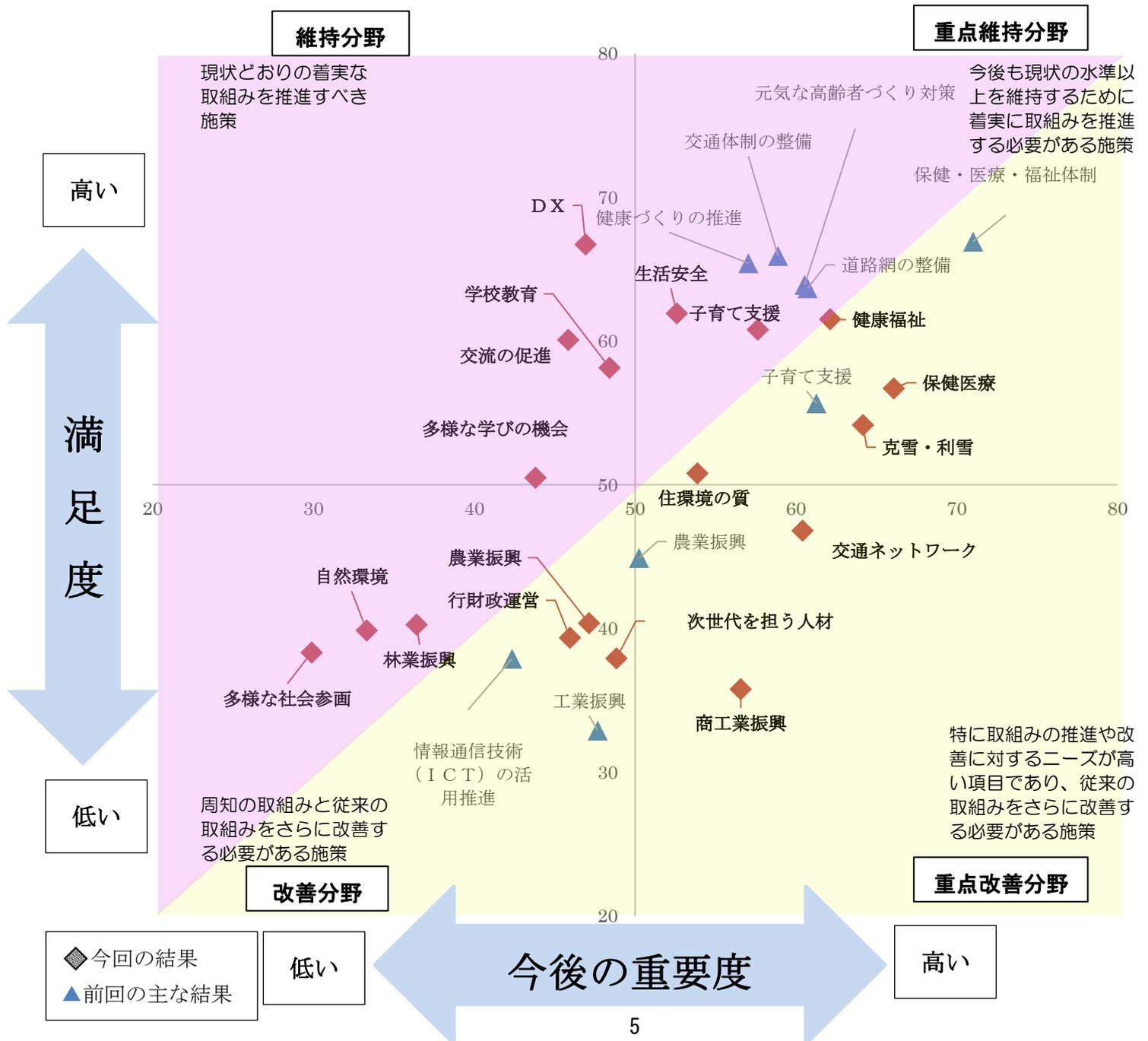
割合（%）については、「重視する」「やや重視する」の合計値としています。

図表 現総合計画の基本目標における  
各施策の満足度と今後の重要度の相関関係（偏差値）

・下の表は、町民の皆さんの回答から、各施策の満足度と今後の施策の重要度の相関関係を満足度偏差値、重要度偏差値（相関係数）、改善度を算出し、その結果を分析することで、どの項目の満足度を上げることが、今後のまちづくりに必要かを図表化したものです。

・右下に近ければ近いほど、『改善の必要性は高い』施策（重点改善分野）となり、左上に近ければ近いほど『改善の必要性が低い』施策（維持分野）となっています。

・下の表から、『改善の必要性は高い』施策は 10 項目（イエローのゾーン）。『改善の必要性は低い』施策は 8 項目（ピンクのゾーン）となっています。



	全体		男性		女性		10-20	
	現状の満足度	今後の重要度	現状の満足度	今後の重要度	現状の満足度	今後の重要度	現状の満足度	今後の重要度
<b>1 やりがいを持って安心して働けるまち</b>								
①農業振興の取組み（産業支援、経営育成など）	19.0%	51.4%	19.3%	54.6%	18.7%	48.1%	30.4%	33.8%
②林業振興の取組み（産業支援、経営育成など）	18.9%	41.4%	20.6%	45.0%	17.3%	37.5%	31.7%	33.8%
③商工業振興の取組み（企業支援、広域的企業誘致など）	14.5%	60.2%	16.0%	62.4%	13.0%	57.7%	26.5%	44.5%
<b>2 健やかで安心して暮らせるまち</b>								
④保健医療の充実（保健・医療の連携、利便性など）	35.0%	69.1%	34.8%	66.5%	35.6%	72.2%	30.4%	49.7%
⑤健康福祉の充実（福祉給付事業、予防接種費用補助など）	39.7%	65.4%	38.5%	61.9%	41.4%	69.3%	25.1%	43.1%
⑥子育て支援の充実（保育料・給食・医療費無償化など）	39.0%	61.2%	34.4%	61.9%	43.8%	60.6%	29.8%	54.4%
<b>3 みんなで育む学びのまち</b>								
⑦学校教育の充実（公営塾、ICT教育推進、ふるさと給食など）	36.4%	52.6%	32.1%	50.9%	40.9%	54.3%	39.0%	47.7%
⑧多様な学びの機会の充実（体験学習、大人向け社会科見学など）	28.9%	48.3%	29.3%	46.8%	28.8%	50.0%	41.6%	41.1%
<b>4 暮らしやすさを実感できるまち</b>								
⑨交通ネットワークの整備（路線バス・デマンドタクシーなど）	25.3%	63.8%	25.3%	64.3%	25.5%	63.4%	35.7%	49.7%
⑩住環境の質の向上（住宅新築・改築・下水・浄化槽補助など）	29.2%	57.7%	29.8%	57.3%	28.8%	58.2%	29.7%	42.5%
⑪生活安全の確保（防災行政無線、個別受信機配備、消防団など）	40.1%	56.5%	38.1%	58.7%	42.8%	54.3%	35.7%	38.4%
⑫大雪・利雪の推進（除雪体制、流雪溝の整備、除雪支援など）	32.5%	67.3%	32.6%	67.4%	32.7%	67.3%	40.4%	53.0%
⑬自然環境の保全・活用（木質チップ、エネルギー活用など）	18.5%	38.5%	16.5%	39.0%	20.6%	38.0%	27.1%	25.2%
<b>5 健全で自立したまち</b>								
⑭次世代を担う人材の確保（移住施策、協力隊、分譲など）	16.6%	53.0%	14.7%	53.6%	18.7%	52.4%	17.8%	43.7%
⑮交流の促進（春まつり、真空川まつり、交流センター整備など）	38.3%	50.2%	33.5%	48.6%	43.8%	51.9%	45.7%	53.0%
⑯多様な主体の社会参画の促進（地域の自主活動への補助、男女共同参画の推進など）	17.0%	35.3%	16.5%	36.3%	17.8%	34.2%	22.5%	31.1%
⑰健全な行財政運営（農く・県補助金などの財源活用など）	18.0%	50.3%	19.2%	53.7%	16.9%	46.6%	24.5%	41.1%
<b>6 その他</b>								
⑱DXの推進（住民票等のコンビニ交付、キャッシュレス納税など）	44.8%	51.2%	42.7%	46.8%	47.6%	54.4%	49.0%	50.4%

※満足度については「満足」「やや満足」の合計値、重要度については「重視」「やや重視」の合計値としている。

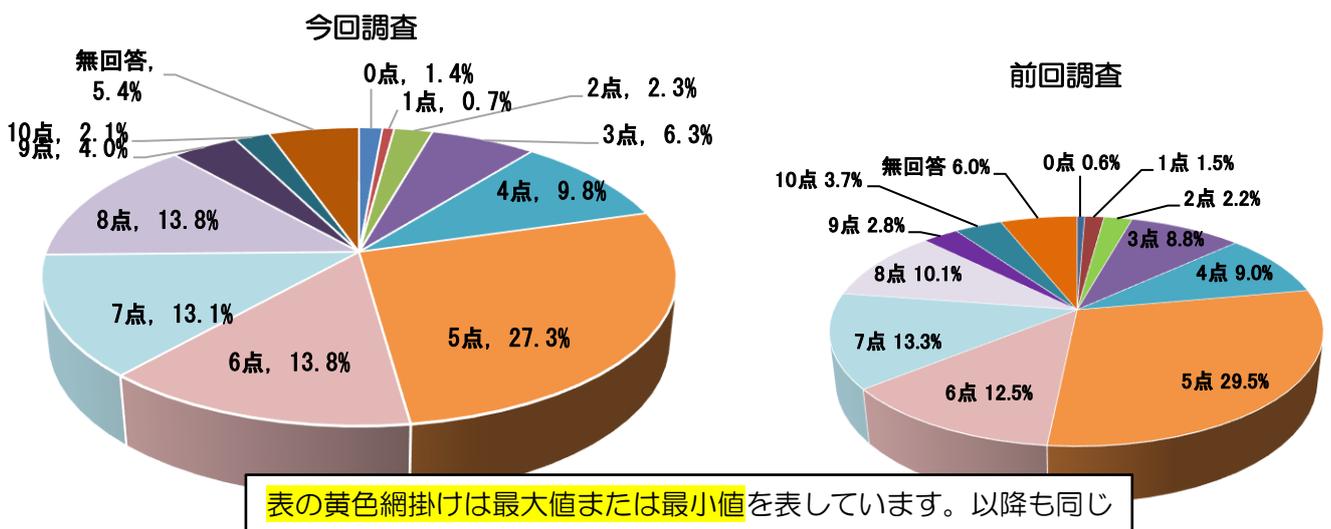
	30		40		50		60		70歳以上	
	現状の満足度	今後の重要度								
<b>1 やりがいを持って安心して働けるまち</b>										
①農業振興の取組み（産業支援、経営育成など）	16.2%	54.0%	29.6%	61.1%	16.3%	47.5%	17.8%	53.4%	12.6%	53.7%
②林業振興の取組み（産業支援、経営育成など）	18.9%	45.9%	27.8%	50.0%	15.0%	36.3%	16.1%	40.7%	15.8%	43.2%
③商工業振興の取組み（企業支援、広域的企業誘致など）	10.8%	62.1%	13.0%	75.9%	18.8%	70.1%	12.7%	58.5%	10.6%	51.5%
<b>2 健やかで安心して暮らせるまち</b>										
④保健医療の充実（保健・医療の連携、利便性など）	37.8%	73.0%	31.5%	77.8%	30.1%	73.8%	38.9%	72.0%	37.9%	64.2%
⑤健康福祉の充実（福祉給付事業、予防接種費用補助など）	43.2%	73.0%	38.9%	72.2%	40.1%	76.3%	45.8%	67.8%	38.9%	56.8%
⑥子育て支援の充実（保育料・給食・医療費無償化など）	48.6%	81.1%	46.3%	75.9%	38.8%	62.5%	43.2%	57.7%	30.6%	51.5%
<b>3 みんなで育む学びのまち</b>										
⑦学校教育の充実（公営塾、ICT教育推進、ふるさと給食など）	48.6%	64.8%	57.4%	70.3%	38.8%	52.5%	32.2%	50.8%	23.2%	42.1%
⑧多様な学びの機会の充実（体験学習、大人向け社会科見学など）	27.0%	62.1%	38.9%	62.9%	25.0%	45.1%	27.9%	47.5%	24.3%	42.1%
<b>4 暮らしやすさを実感できるまち</b>										
⑨交通ネットワークの整備（路線バス・デマンドタクシーなど）	24.3%	64.8%	24.1%	77.7%	18.8%	66.3%	22.9%	68.6%	30.5%	53.7%
⑩住環境の質の向上（住宅新築・改築・下水・浄化槽補助など）	24.3%	64.8%	33.3%	72.2%	22.5%	65.1%	30.5%	58.5%	33.7%	46.3%
⑪生活安全の確保（防災行政無線、戸別受信機配備、消防団など）	48.6%	62.1%	40.8%	70.3%	36.3%	57.6%	44.0%	60.2%	37.9%	49.4%
⑫克雪・利雪の推進（除雪体制、流雪溝の整備、除雪支援など）	27.0%	64.8%	31.5%	77.8%	30.1%	70.1%	36.4%	75.4%	29.5%	56.9%
⑬自然環境の保全・活用（木質チップ、エネルギー活用など）	21.6%	29.7%	37.8%	50.0%	13.8%	38.8%	19.4%	41.5%	12.7%	37.9%
<b>5 健全で自立したまち</b>										
⑭次世代を担う人材の確保（移住施策、協力隊、分譲など）	18.9%	56.7%	18.5%	76.0%	17.6%	48.8%	16.1%	51.7%	14.8%	48.5%
⑮交流の促進（春まつり、真室川まつり、交流センター整備など）	51.3%	59.4%	40.8%	63.0%	35.1%	52.6%	35.6%	50.0%	34.7%	36.9%
⑯多様な主体の社会参画の促進（地域の自主活動への補助、男女共同参画の推進など）	13.5%	40.5%	24.1%	44.5%	13.8%	28.8%	15.3%	39.9%	17.9%	30.6%
⑰健全な行財政運営（国・県補助金などの財源活用など）	10.8%	43.2%	18.5%	77.8%	17.5%	48.8%	17.7%	50.0%	18.9%	43.2%
<b>6 その他</b>										
⑱DXの推進（住民票等のコンビニ交付、キャッシュレス納税など）	56.7%	54.0%	44.4%	57.4%	53.8%	60.0%	44.9%	52.5%	31.6%	34.7%

※満足度については「満足」「やや満足」の合計値、重要度については「重視」「やや重視」の合計値としている。

## 2. 幸福度について

- 町民一人ひとりが日々の暮らしの中で、幸せを実感できることが、よりよいまちづくりの原点であると考え、現在どのように感じているかを調査。
- 幸福度の平均は、「5.75点」。前回の「5.57点」と比較すると幸福度が上がっている。中間である5点を約3割が占め、0～4点までが、約2割。平均以上に幸福を実感している6～10点までは約5割という回答。
- 性別では、男性の平均が「5.53点」、女性の平均は「5.96点」。
- 年代別では40代が「5.86点」と最も高く、30代が「5.54点」と最も低い。
- 幸せの判断基準は「将来への期待や不安」が最も多い。
- 幸せを判断する際に重視することは「(自身の)健康状態」が最も多く、次いで「家計の状況」となっている。

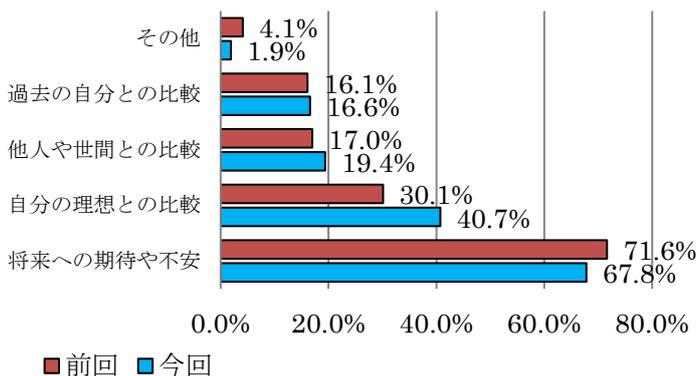
問2. あなたは、現在どの程度幸せだと感じていますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸せ」を0点とすると、何点ぐらいになると思いますか。(n=428)



	全体	男	女	10-20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
幸福度 (平均)	今回	5.75	5.53	5.59	5.54	5.86	5.59	5.81	5.60
	前回	5.57	5.35	5.76	5.48	5.15	5.66	5.25	5.79

※平均は無回答、性別・年代不明の方を除く

問2-1. あなたが幸せだと判断する際に、重視する基準はどれですか。(複数回答可)



幸せだと判断する際に重視する基準は「将来への期待や不安」(67.8%)が最も多くを占め、次いで「自分の理想との比較」(40.7%)であり、「他人や世間との比較」(19.4%)や「過去の自分との比較」(16.6%)とは大きな開きがあります。

前回と比較すると、自分の理想との比較が増え、個人の理想を重視する傾向が高まっていると推測されます。

【その他の回答】

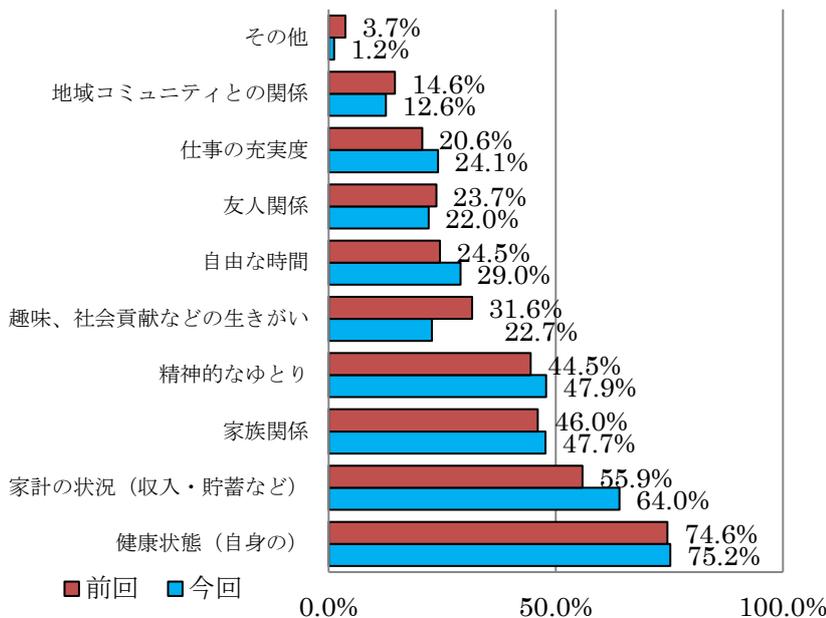
- ・不安がないこと ・毎日の生活が不安 ・生活がある程度安定しているかどうか ・現在の自分自身の状況
- ・生活する上で不安がそれほどなければ幸せ ・食事 ・自治体の進展 ・家族の健康

単位：％

	全体	男 (n=212)	女 (n=205)	10-20代 (n=44)	30代 (n=37)	40代 (n=52)	50代 (n=79)	60代 (n=116)	70歳以上 (n=91)
将来への期待や不安	67.8	69.8	68.3	72.7	73.0	82.7	77.2	71.6	48.4
自分の理想との比較	40.7	38.2	44.9	59.1	56.8	36.5	38.0	35.3	40.7
他人や世間との比較	19.4	19.3	20.0	20.5	24.3	17.3	16.5	20.7	20.9
過去の自分との比較	16.6	21.7	13.2	25.0	5.4	13.5	16.5	16.4	20.9
その他	19.9	3.8	2.9	0.0	2.7	0.0	2.5	3.4	1.1

※無回答、性別・年代不明の方を除く

問2-2. あなたが幸せだと判断する際に、重視することはどれですか。(複数回答可)



幸せだと判断する際に重視することは「健康状態 (自身の)」(75.2%) が最も多くを占め、次いで「家計の状況 (収入・貯蓄など)」(64.0%) となり、「家族関係」(47.7%) や「精神的なゆとり」(47.6%) がほぼ同数で続いています。「地域コミュニティとの関係」(12.6%) は、2割に満たず、大きな開きがあります。前回と比較すると「家計の状況」を重視するが増え、「趣味、社会貢献などの生きがい」が減っており、趣味より家計を重視する傾向が高まっていることが推測されます。

【その他の回答】

- ・町の発展と経済の発展 ・自然環境 ・家族の健康

単位：％

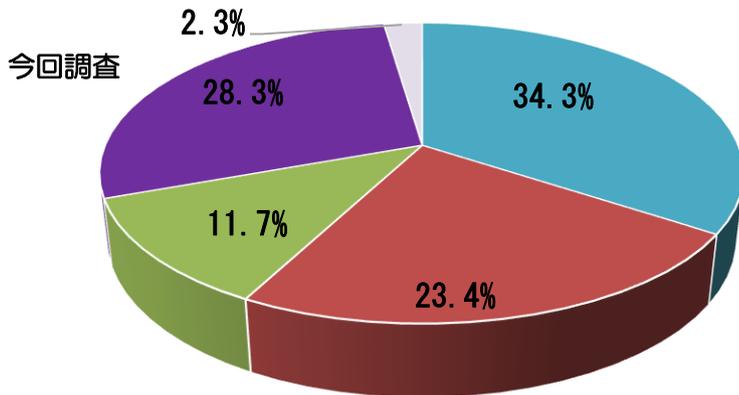
	全体	男 (n=212)	女 (n=205)	10-20代 (n=44)	30代 (n=37)	40代 (n=52)	50代 (n=79)	60代 (n=116)	70歳以上 (n=91)
健康状態(ご自身の)	75.2	74.1	79.5	54.5	73.0	76.9	77.2	86.2	76.9
家計の状況(所得・貯蓄など)	64.0	64.2	66.3	40.9	73.0	76.9	79.7	71.6	47.3
家族関係	47.7	43.4	53.7	36.4	62.2	67.3	53.2	48.3	35.2
精神的なゆとり	47.9	42.5	55.1	56.8	59.5	61.5	59.5	50.9	22.0
趣味、社会貢献などの生きがい	22.7	25.0	21.0	50.0	29.7	23.1	21.5	19.8	13.2
自由な時間	29.0	27.4	31.7	59.1	43.2	25.0	34.2	21.6	18.7
友人関係	22.0	17.9	26.8	36.4	37.8	23.1	16.5	19.8	17.6
仕事の充実度	24.1	25.5	23.4	15.9	35.1	34.6	32.9	23.3	13.2
地域コミュニティとの関係	12.6	15.6	10.2	6.8	16.2	13.5	8.9	19.8	8.8
その他	1.2	1.9	0.5	0.0	0.0	1.9	2.5	0.0	2.2

※無回答者除く

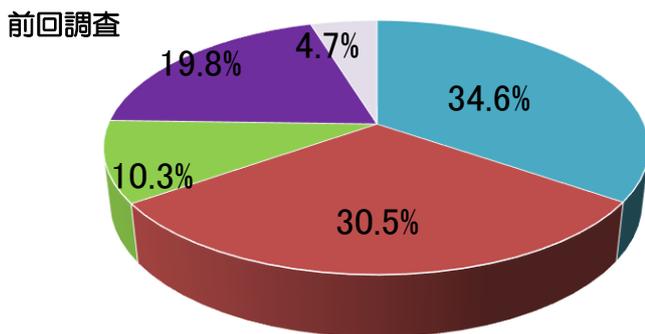
### 3. ご自身の地域活動・まちづくり活動について

- 「地域活動・まちづくり活動に今後あるいは将来は参加する」とした合計を性別で見ると、男性は63.0%に対し、女性では55.6%。
- 年代別では40代から70歳以上30%以上を占め、現在多く参加している状況にあり、30代でも、現在の参加は20%台であるが、将来は参加したいとした方を含めると、60%を超える回答となっている。
- 前回と比較し、「将来は参加したい」が減り、「今後も参加するつもりはない」が増えていることから、地域活動への関心が薄れている状況となっている。
- 現在参加しているあるいは将来参加していく活動では、「地区や町内会活動」（70.0%）が最も多く、次いで「地域づくりや町おこしに関する活動」（21.9%）という結果となっている。

問3-1. あなたの地域活動・まちづくり活動への現在の参加状況と、今後の参加意向についておたずねします。  
(n=428)



- 1.現在、地域活動・まちづくり活動に参加しており、今後も参加していく
- 2.現在、地域活動・まちづくり活動に参加していないが、将来は参加したい
- 3.現在、地域活動・まちづくり活動に参加しているが、今後は参加しない(できない)
- 4.現在、地域活動・まちづくり活動に参加しておらず、今後も参加するつもりはない
- 無回答



**【まちづくり活動参加】**  
問2の「幸福度」と「地域活動等の参加状況」の関連性を調べると、参加しているとした方の幸福度は5.93点となり、参加していないとした方の5.00点を上回っています。地域との関連性や精神的・時間的ゆとりが関係しているものと思われます。

単位：%

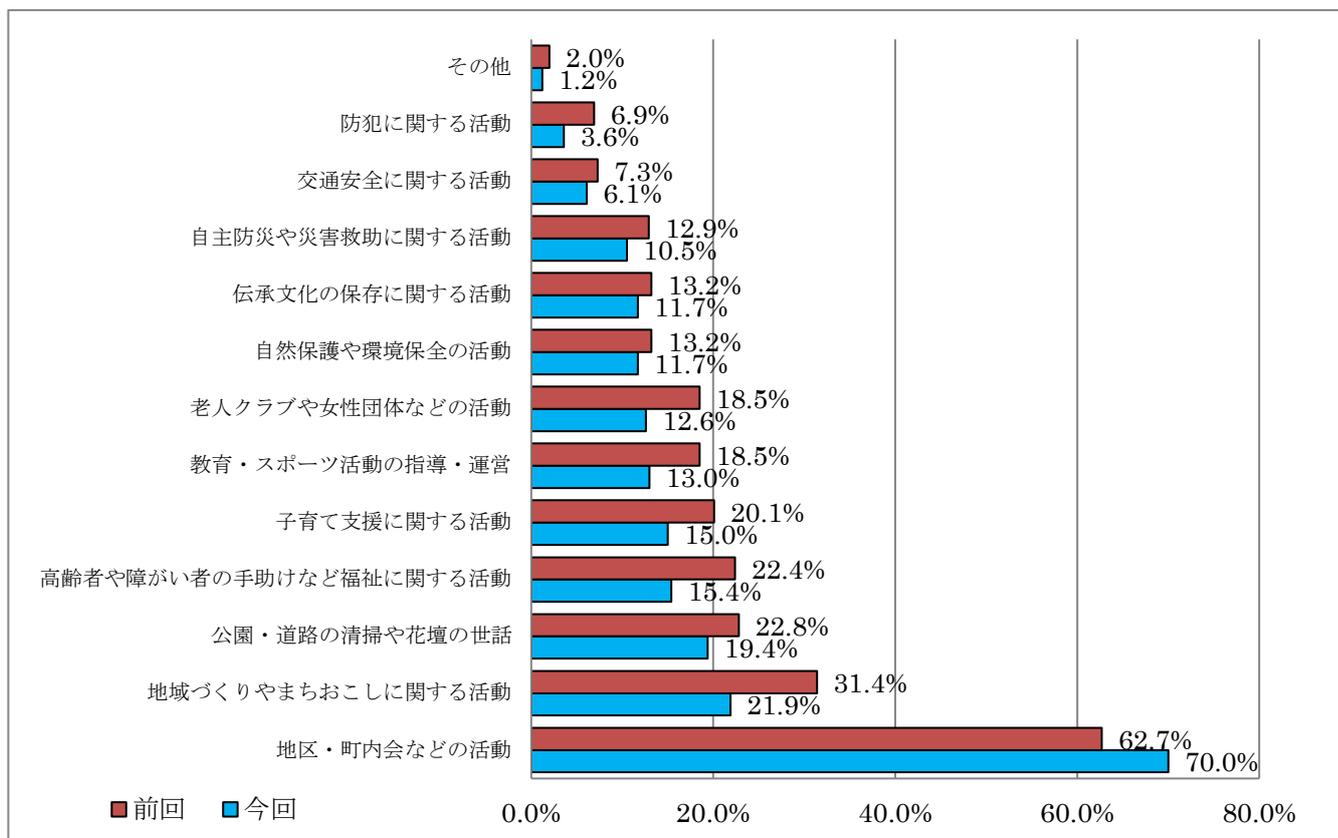
	全体	男 (n=211)	女 (n=205)	10-20代 (n=44)	30代 (n=37)	40代 (n=53)	50代 (n=80)	60代 (n=116)	70歳以上 (n=88)
現在参加しており今後も参加していく	34.3	43.1	27.3	15.9	27.0	39.6	33.8	40.5	39.8
現在参加していないが将来は参加したい	23.4	19.9	28.3	27.3	37.8	32.1	25.0	23.3	11.4
現在参加しているが今後は参加できない	11.7	13.3	10.2	9.1	0.0	7.5	8.8	14.7	20.5
現在参加しておらず今後も参加しない	28.3	23.7	34.1	47.7	35.1	20.8	32.5	21.6	28.4

※無回答、性別・年代不明の方を除く

問3-2. あなたは、今後（今後とも）どのような地域活動・まちづくり活動に参加したいと思いますか。

(問3-1で「1.」または「2.」に○をつけた方のみ回答)

(n=247)

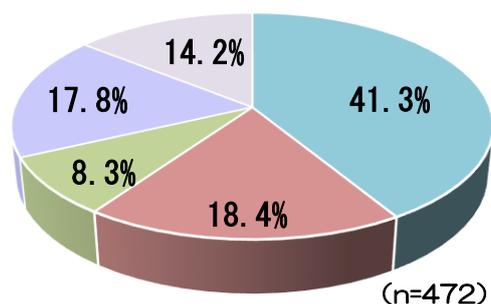


単位：%

	全体	男 n=(114)	女 n=(113)	10-20代 n=(17)	30代 n=(24)	40代 n=(38)	50代 n=(47)	60代 n=(73)	70歳以上 n=(45)
地区・町内会などの活動	70.0	86.7	66.4	64.7	54.2	63.2	76.6	74.0	77.8
公園・道路の清掃や花壇の世話	19.4	25.7	16.8	35.3	8.3	18.4	21.3	16.4	24.4
自然保護や環境保全の活動	11.7	20.4	5.3	23.5	8.3	5.3	12.8	17.8	4.4
老人クラブや女性団体などの活動	12.6	6.2	21.2	0.0	8.3	0.0	10.6	13.7	31.1
子育て支援に関する活動	15.0	6.2	26.5	17.6	29.2	26.3	12.8	9.6	8.9
教育・スポーツ活動の指導・運営	13.0	18.6	9.7	35.3	25.0	23.7	4.3	9.6	4.4
伝承文化の保存に関する活動	11.7	11.5	14.2	5.9	12.5	13.2	12.8	13.7	8.9
高齢者や障がい者の手助けなど福祉に関する活動	15.4	9.7	23.9	5.9	16.7	10.5	23.4	15.1	15.6
地域づくりやまちおこしに関する活動	21.9	31.0	16.8	35.3	12.5	15.8	25.5	20.5	26.7
自主防災や災害救助に関する活動	10.5	23.0	0.0	11.8	12.5	21.1	8.5	9.6	4.4
交通安全に関する活動	6.1	8.0	5.3	0.0	0.0	2.6	4.3	11.0	8.9
防犯に関する活動	3.6	8.0	0.0	0.0	0.0	2.6	6.4	6.8	0.0

※無回答、性別・年代不明の方を除く

地域福祉に関するアンケート



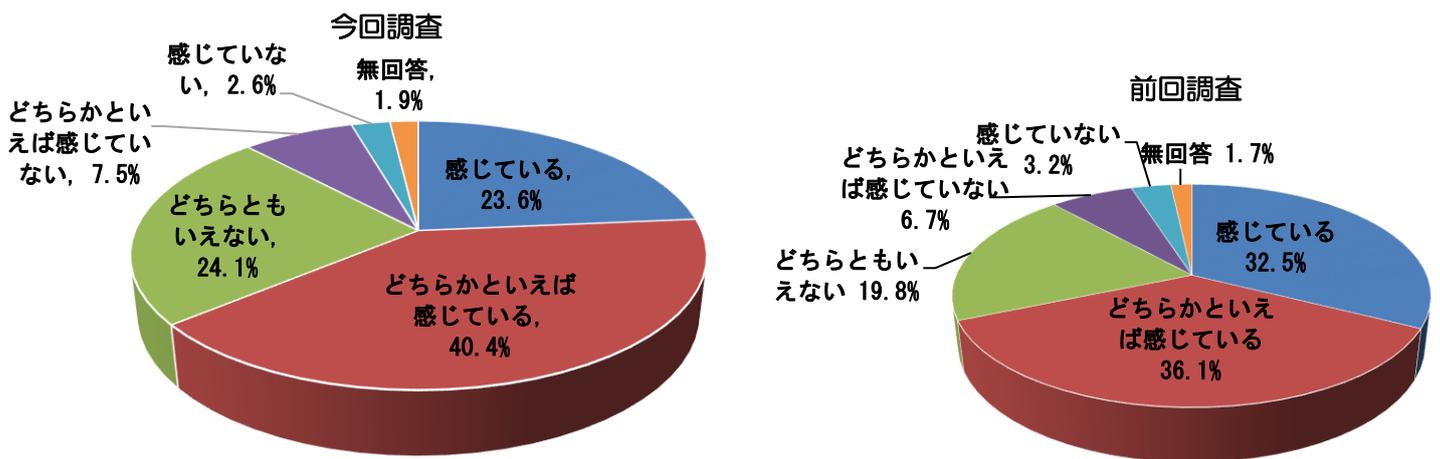
- 1.現在、地域活動・まちづくり活動に参加しており、今後も参加していく
- 2.現在、地域活動・まちづくり活動に参加していないが、将来は参加したい
- 3.現在、地域活動・まちづくり活動に参加しているが、今後は参加しない(できない)
- 4.現在、地域活動・まちづくり活動に参加しておらず、今後も参加するつもりはない
- 無回答

同時期の8月8日～9月15日に実施「真室川町地域福祉計画」策定のための地域福祉に関するアンケート調査において、本まちづくりアンケートとは別の町民の方々の回答でも、大きな差異はありませんでした。

**4. まちへの愛着度と定住意向などについて**

- 『まちへの愛着度』では、「感じている」(23.6%)、「どちらかといえば感じている」(40.4%)を合計した『愛着を感じている』は64.0%となっている。前回の68.6%と比較し減少した。
- 性別でみた場合、男女とも『愛着を感じている』は約6割で(男67.6%、女63.4%)、年代別では70歳以上で『愛着を感じている』(68.9%)が最も多く、10-20代で61.4%と最も低い結果となった。
- 『まちの住みやすさ』では、「住みやすい」(38.3%)と「どちらともいえない」(40.4%)がほぼ同数。前回と比較すると「住みやすい」が微減し、「住みにくい」が増している。
- 性別でみた場合、男女とも『住みやすい』は4割近く(男39.9%、女42.9%)、年代別では30代で『住みやすい』(51.4%)が最も多く、50代で17.5%と最も低い。
- 『住みにくい』については10-20(29.5%)が最も多い結果となっておりますが、各年代において「住みにくい」を「住みやすい」が上回っている。
- 『まちへの定住意向』では、「住み続けたい」(32.2%)と「どちらかといえば住み続けたい」(32.2%)を合計した『住み続けたい』は64.4%となっている。前回の69.3%からは微減となった。
- 「住みたくない」(2.3%)、「どちらかといえば住みたくない」(10.5%)を合計した『住みたくない』は12.8%となっている。前回の14.6%と比較すると微減となった。
- 性別でみた場合、男女とも『住み続けたい』は6割程度(男68.9%、女65.4%)、年代別では70歳以上で『住み続けたい』(76.4%)が最も多く、それ以外の年代では平均を下回っている。
- 『住みたくない』は、30代40代(18.9%)が最も多い。

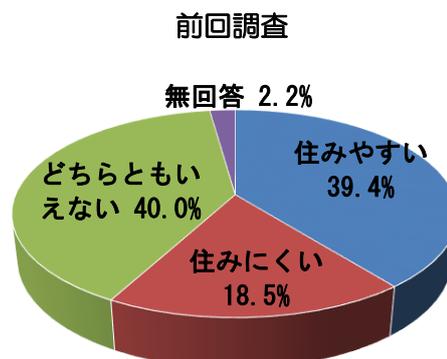
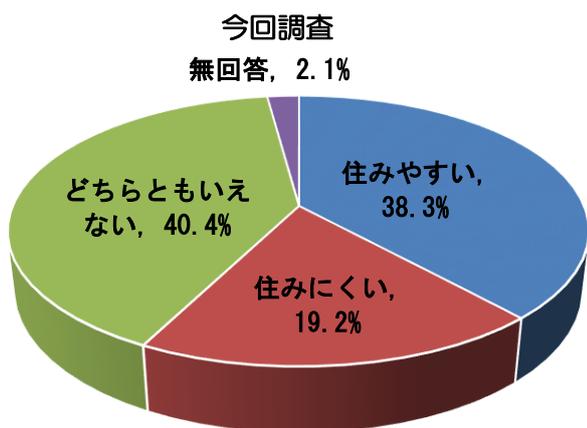
問4. あなたは、「真室川町」にどの程度愛着を感じていますか。(n=428)



	全体	男	女	10-20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
感じている	23.6	27.7	20.5	18.2	29.7	20.8	17.5	25.0	31.1
どちらかといえば感じている	40.4	39.9	42.9	43.2	37.8	39.6	45.0	42.2	37.8
どちらともいえない	24.1	23.5	25.4	27.3	18.9	26.4	23.8	23.3	26.7
どちらかといえば感じていない	7.5	4.2	10.7	9.1	10.8	9.4	10.0	6.9	3.3
感じていない	2.6	4.7	0.5	2.3	2.7	3.8	3.8	2.6	1.1

※無回答等を除く

問4-2. あなたは、真室川町を住みやすい町だと思いますか。 (n=428)



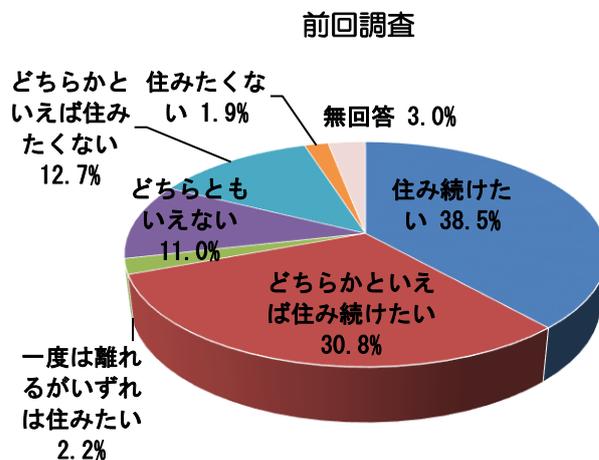
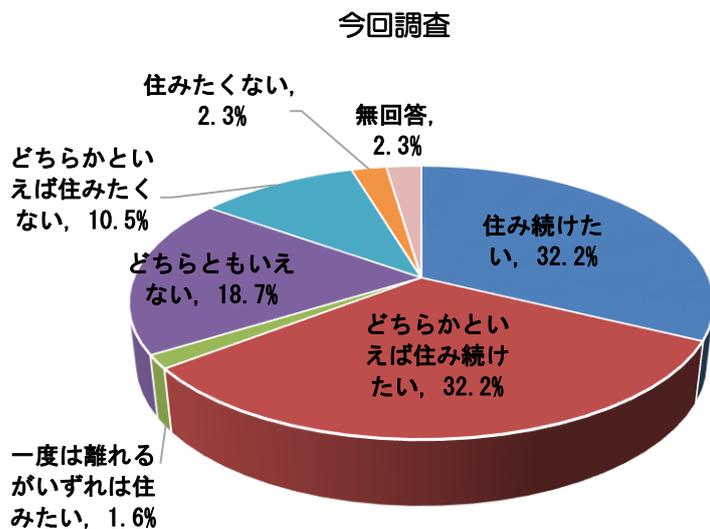
単位：%

	全体	男	女	10-20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
住みやすい	38.3	40.5	38.2	31.8	51.4	47.2	28.8	40.2	40.9
住みにくい	19.2	21.9	16.9	29.5	21.6	22.6	22.5	16.2	13.6
どちらともいえない	40.4	37.6	44.9	38.6	27.0	30.2	48.8	43.6	45.5

※無回答、性別・年代不明の方を除く

問4-3. 真室川町への定住意向についておたずねします。

① あなたは、今後も真室川町に住み続けたいと思いますか。(n=428)



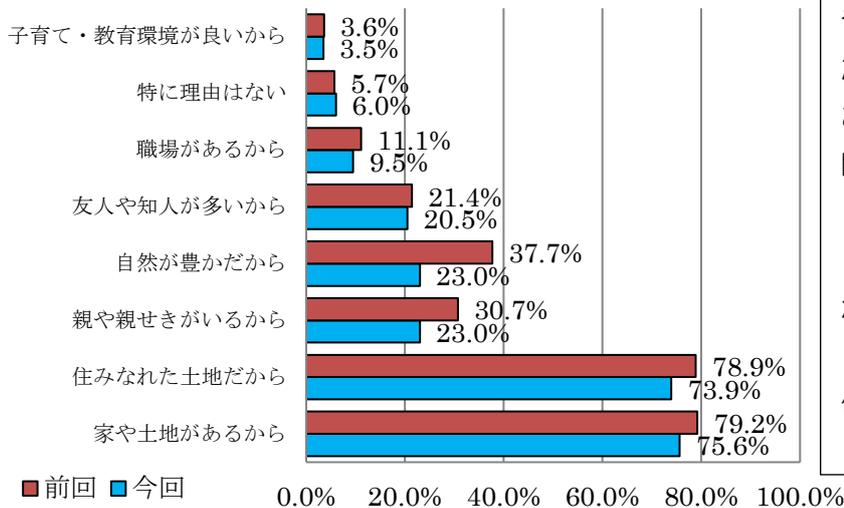
単位：%

	全体	男	女	10-20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
住み続けたい	32.2	34.9	32.2	11.4	37.8	24.5	27.8	40.2	44.9
どちらかといえば住み続けたい	32.2	34.0	31.2	34.1	29.7	30.2	32.9	35.0	31.5
一度は離れるがいずれは住みたい	1.6	1.4	2.0	6.8	0.0	1.9	3.8	0.0	0.0
どちらともいえない	18.7	17.9	20.5	31.8	13.5	24.5	19.0	16.2	14.6
どちらかといえば住みたくない	10.5	9.0	12.2	13.6	16.2	15.1	15.2	6.0	6.7
住みたくない	2.3	2.8	2.0	2.3	2.7	3.8	1.3	2.6	2.2

※無回答、性別・年代不明の方を除く

**住み続けたい主な理由は何ですか。(問4-3の①で「住み続けたい」「どちらからいけば住み続けたい」「一度は離れるがいずれは住みたい」と回答した方)**

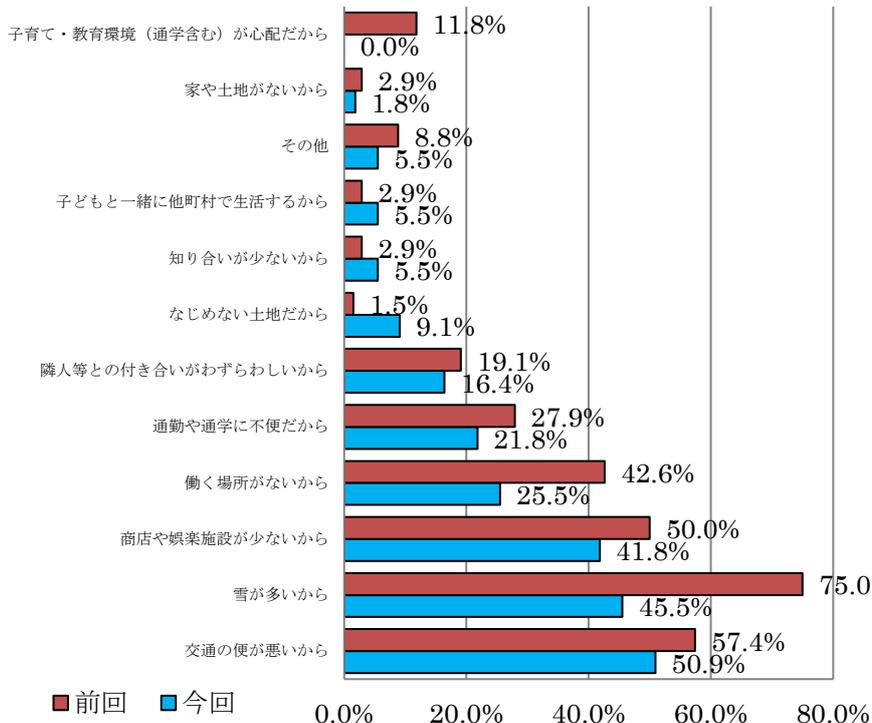
住み続けたい理由(3つまで選択)(複数回答可) n=283



住み続けたい理由についてみると、「家や土地があるから」(75.6%)、「住みなれた土地だから」(73.9%)が約7割となっており、次いで家族や友人などの人間関係が関連する「親や親せきがいるから」(23.0%)、「自然が豊かだから」(23.0%)となっています。「友人や知人が多いから」(20.5%)は2割程度であり、「職場があるから」(9.5%)は1割程度と低い結果となっています。

**住みたくない主な理由は何ですか。(問4-3の①で「住みたくない」「どちらからいけば住みたくない」と回答した方)**

住みたくない理由(3つまで選択)(複数回答可) n=55



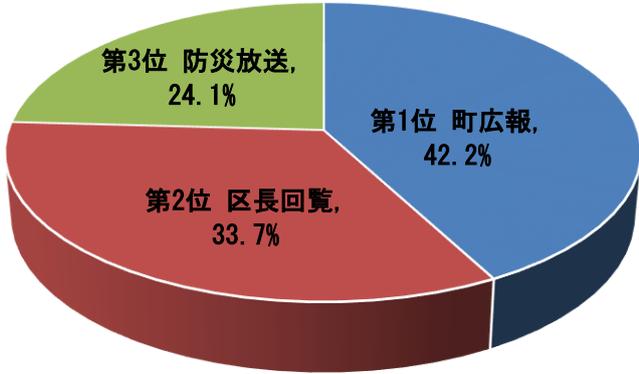
住みたくない理由についてみると、「交通の便が悪いから」(50.9%)、「雪が多いから」(45.5%)、「商店や娯楽施設が少ないから」(41.8%)が4割を超えています。次いで、「働く場所がないから」(25.5%)、「通勤や通学に不便だから」(21.8%)となっています。前回調査と比較し、「雪が多いから」が大幅に減少していることがわかります。

**【その他の回答】**

- ・利点を感じない
- ・町が農業振興に非協力的だから
- ・高齢者が自立できる環境ではないから。除雪・交通インフラ等

## 5. まちからの情報発信について

### 問5-1. 真室川町からの情報は得ていますか。(n=428)



町からの情報を取得する手段をみると、1位では「町広報」が最も多く、2位では「区長回覧」、3位では「防災放送」となっています。

第1位を年齢別にみると、全ての年代で「町広報」を活用していることがわかります。30代、40代では「町公式LINE」を活用し情報を取得していることがわかります。

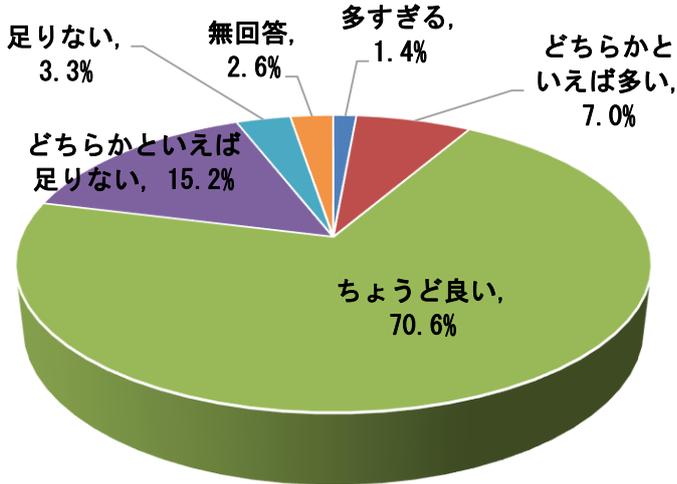
第1位

単位：%

	全体	男	女	10-20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
町広報	61.9	59.6	64.1	46.5	51.4	50.9	59.7	62.9	80.0
区長回覧	16.4	19.7	13.1	14.0	13.5	11.3	16.9	21.6	14.7
町ホームページ	3.3	4.2	2.4	7.0	2.7	5.7	2.6	3.4	1.1
町公式LINE	10.1	7.5	12.6	11.6	16.2	13.2	14.3	9.5	2.1
町公式SNS(ｲﾝｽﾀｸﾞﾗﾑ・X等)	4.3	5.2	3.4	11.6	13.5	13.2	1.3	0.0	0.0
防災放送	4.1	3.8	4.4	9.3	2.7	5.7	5.2	2.6	2.1

※無回答、性別・年代不明の方を除く

### 問5-2. 真室川町からの情報発信の量は十分ですか。(n=428)



町からの情報発信の量をみると、「ちょうど良い」(70.6%)で、7割を占め、次いで「どちらかといえば足りない」(15.2%)となりました。

年代別でも、全ての年代で「ちょうど良い」が多い状況となっています。

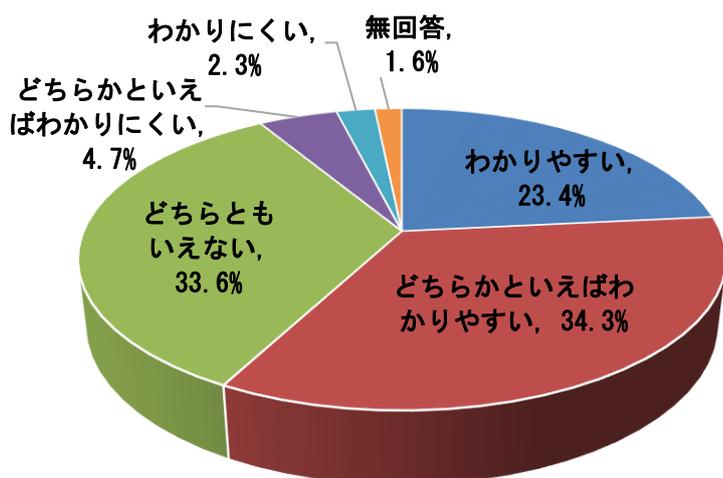
10代から60代では次いで「どちらかといえば足りない」ですが、70歳以上は「どちらかといえば多い」となりました。

単位：%

	全体	男	女	10-20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
多すぎる	1.4	1.9	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	2.2
どちらかといえば多い	7.0	8.5	5.9	4.5	2.8	3.8	5.2	8.6	12.1
ちょうど良い	70.6	69.7	75.0	79.5	80.6	60.4	75.3	69.8	73.6
どちらかといえば足りない	15.2	15.2	16.2	15.9	16.7	32.1	14.3	13.8	8.8
足りない	3.3	4.7	2.0	0.0	0.0	3.8	5.2	4.3	3.3

※無回答、性別・年代不明の方を除く

問5-3. 真室川町からの情報はわかりやすいですか。(n=428)



町からの情報のわかりやすさをみると、「わかりやすい」(23.4%)、「どちらかといえばわかりやすい」(34.3%)で約6割となっています。

年代別で見ると、30代、40代、60代では「どちらかといえばわかりやすい」が最も多く、70歳以上では「わかりやすい」が最も多くなりました。

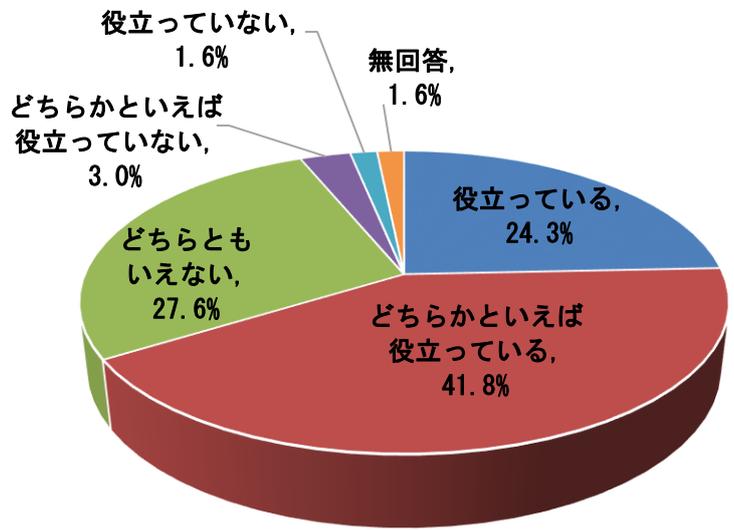
一方で10-20代、50代は「どちらともいえない」が多くなっています。

単位：%

	全体	男	女	10-20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
わかりやすい	23.4	19.2	28.8	25.0	21.6	22.6	14.3	20.7	36.2
どちらかといえばわかりやすい	34.3	32.2	37.1	25.0	40.5	37.7	36.4	43.1	25.5
どちらともいえない	33.6	40.2	28.3	38.6	35.1	28.3	37.7	31.9	34.0
どちらかといえばわかりにくい	4.7	5.1	4.4	9.1	2.7	9.4	5.2	2.6	3.2
わかりにくい	2.3	3.3	1.5	2.3	0.0	1.9	6.5	1.7	1.1

※無回答、性別・年代不明の方を除く

問5-4. 真室川町からの情報発信は生活に役立っていますか。(n=428)



町からの情報発信の効果を見ると、「役立っている」(24.3%)、「どちらかといえば役立っている」(41.8%)と約7割となっています。

一方、「役立っていない」(1.6%)、「どちらかといえば役立っていない」(3.0%)と、1割を切っています。

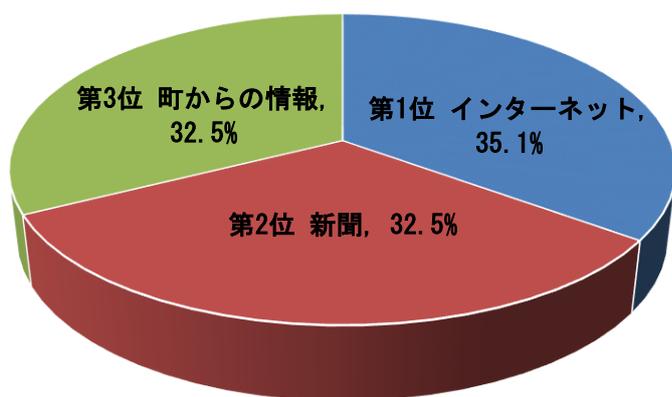
年代別にみると、30代から70歳以上で「どちらかといえば役立っている」が最も多い結果となりました。

単位：%

	全体	男	女	10-20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
役立っている	24.3	19.2	30.7	18.2	33.3	24.5	14.3	25.9	31.6
どちらかといえば役立っている	41.8	45.3	39.0	29.5	36.1	35.8	53.2	50.9	35.8
どちらともいえない	27.6	29.4	26.8	45.5	25.0	30.2	24.7	20.7	31.6
どちらかといえば役立っていない	3.0	3.7	2.4	4.5	2.8	5.7	5.2	1.7	1.1
役立っていない	1.6	2.3	1.0	2.3	2.8	3.8	2.6	0.9	0.0

※無回答、性別・年代不明の方を除く

問5-5. 情報を取得する手段は何ですか。(必要な情報を取得する手段がある方のみ) (n=338)



情報を取得する手段をみると、1位では「インターネット」が最も多く、2位では「新聞」、3位では「町からの情報」となっています。

第1位を年齢別にみると、10代から50代の年代で「インターネット」や「SNS（インスタグラム・X等）」のツールを活用し情報を取得していることがわかります。60代から70歳以上ではテレビから情報を得ていることが多い状況となっています。

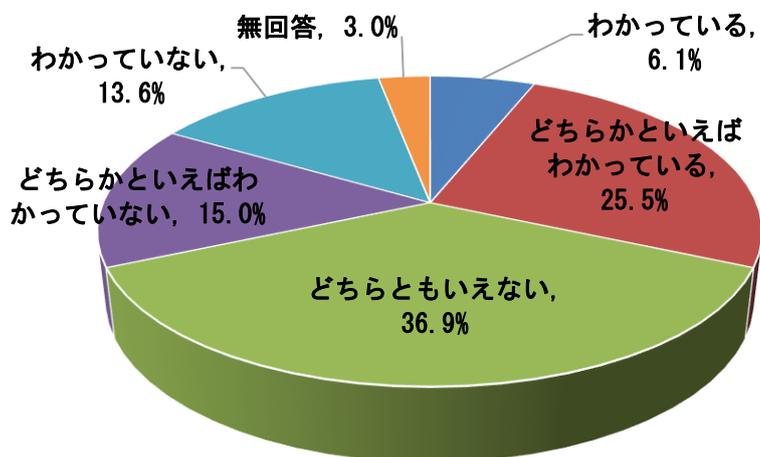
第1位

単位：%

	全体	男	女	10-20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
テレビ	31.8	26.9	36.7	2.6	15.6	14.6	37.5	40.4	51.6
新聞	9.2	12.6	5.9	0.0	3.1	2.1	7.8	17.0	14.5
ラジオ	1.2	1.8	0.6	2.6	0.0	2.1	0.0	1.1	1.6
町からの情報	12.8	13.2	12.4	0.0	0.0	12.5	9.4	19.1	21.0
インターネット	31.9	33.5	30.2	55.3	34.4	56.3	42.2	19.1	6.5
SNS(インスタグラム・X等)	13.1	12.0	14.2	39.5	46.9	12.5	3.1	3.2	4.8

※無回答、性別・年代不明の方を除く

問5-6. あなたは、自分に関する制度政策はわかっていますか。(n=428)



制度政策の理解度をみると、「わかっている」(6.1%)、「どちらかといえばわかっている」(25.5%)で約3割となっています。また、「わかっていない」(13.6%)、「どちらかといえばわかっていない」(15.0%)となり、「わかっている」が上回っています。一方で「どちらともいえない」(36.9%)で約4割となっています。

単位：%

	全体	男	女	10-20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
わかっている	6.1	7.3	4.8	4.5	10.8	7.4	5.0	1.7	10.5
どちらかといえばわかっている	25.5	29.4	21.2	13.6	16.2	22.2	26.3	37.3	21.1
どちらともいえない	36.9	35.3	38.9	20.5	32.4	42.6	37.5	38.1	41.1
どちらかといえばわかっていない	15.0	12.4	17.3	22.7	21.6	18.5	13.8	11.9	11.6
わかっていない	13.6	12.4	14.9	38.6	18.9	7.4	13.8	8.5	9.5
無回答	3.0	3.2	2.9	0.0	0.0	1.9	3.8	2.5	6.3

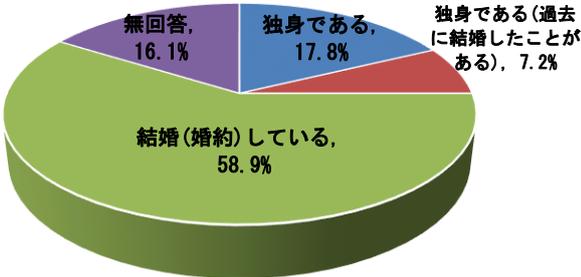
※性別・年代不明の方を除く

**6. 結婚について（18歳以上の方のみ）**

- 「独身である」（17.8%）と「独身である（過去に結婚したことがある）」（7.2%）を合計した『独身である』は25.0%であり、『結婚（婚約）している』は58.9%。前回とほぼ同数。
- 独身である方の結婚に対する考えでは、「いずれは結婚したい」（38.3%）が約4割、「結婚するつもりはない」（59.8%）が約6割。前回と比較すると「結婚するつもりはない」の割合が高くなっている。
- 結婚したい年齢についてみると、「25～29歳」（29.3%）が最も多く、「35～39歳」（19.5%）、「45歳以上」（19.5%）がほぼ同じ。

**問6-1. 婚姻状況についてうかがいます。（n=426）**

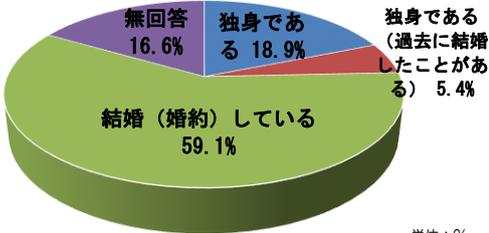
今回調査



単位：%

	全体	男 n=(218)	女 n=(208)
1.独身である	17.8	22.5	13.0
2.独身である(過去に結婚したことがある)	7.2	6.0	8.7
3.結婚(婚約)している	58.9	55.5	62.5
無回答	16.1	16.1	15.9

前回調査



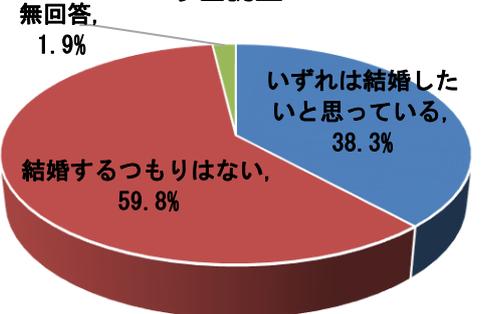
単位：%

	全体	男 n=(213)	女 n=(242)
1.独身である	18.9	23.0	15.7
2.独身である(過去に結婚したことがある)	5.4	5.2	5.0
3.結婚(婚約)している	59.1	59.1	59.9
無回答	16.6	12.7	19.4

※性別不明の方を除く

**問6-2. あなたの結婚に対するお考えはどちらですか。（問6-1で「独身である」「独身である（過去に結婚したことがある）」と回答した方）（n=107）**

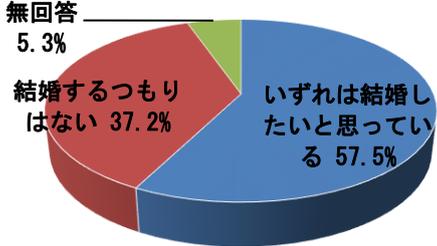
今回調査



単位：%

	全体	男 n=(62)	女 N=(45)
いずれは結婚したいと思っている	38.3	43.5	31.1
結婚するつもりはない	59.8	54.8	66.7
無回答	1.9	1.6	2.2

前回調査

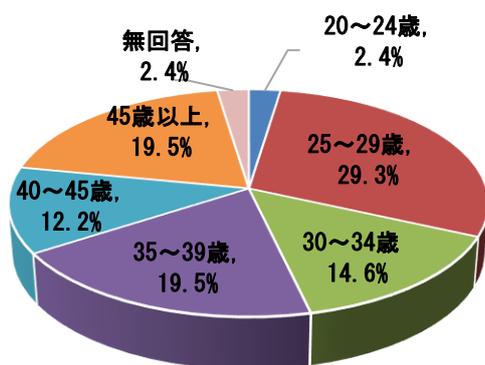


単位：%

	全体	男 n=(35)	女 N=(30)
いずれは結婚したいと思っている	57.5	58.3	60.0
結婚するつもりはない	37.2	35.0	38.0
無回答	5.3	6.7	2.0

※性別不明の方を除く

問 6-3. あなたは何歳ぐらいで結婚したいと思いますか。(問 6-2 で「いずれは結婚したいと思っている」と回答した方) (n=41)



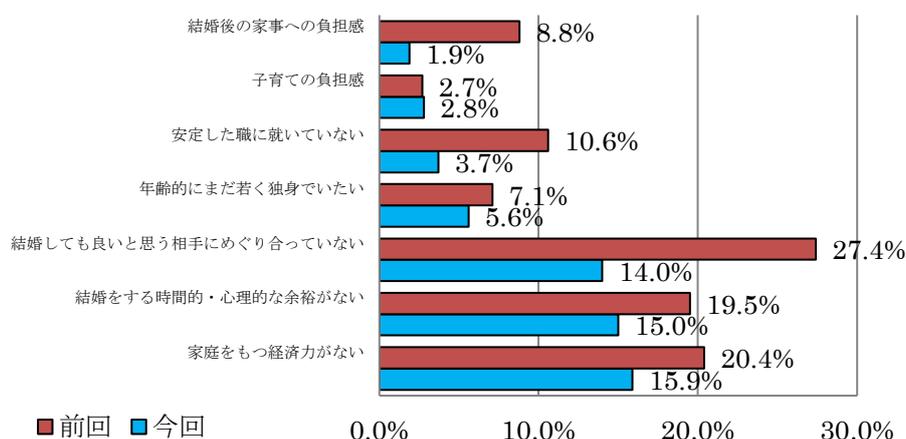
単位：%

	全体	男 n=(27)	女 n=(14)
1.20~24歳	2.4	3.7	0.0
2.25~29歳	29.3	29.6	35.7
3.30~34歳	14.6	14.8	14.3
4.35~39歳	19.5	14.8	21.4
5.40~45歳	12.2	14.8	7.1
6.45歳以上	19.5	18.5	21.4
無回答	2.4	3.7	0.0

※性別不明の方を除く

問 6-4. 現在、未婚である主な理由をお答えください。(3つまで選択) (n=107)

未婚である主な理由をお答えください(3つまで選択) (複数回答可) n=107



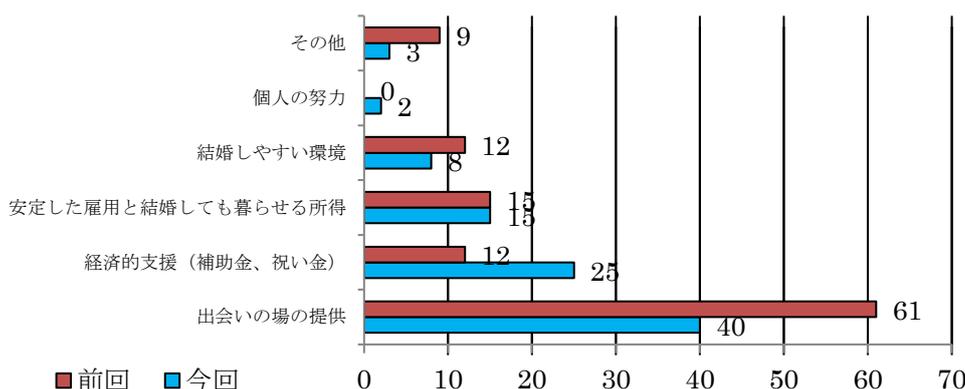
未婚である理由についてみると、「家庭をもつ経済力がない」(15.9%)が最も多く、前回最も多かった「結婚しても良いと思う相手にめぐり合っていない」は減少している状況となっています。また、「安定した職に就いていない」「結婚後の家事への負担感」も前回と比較し減っています。

単位：%

	全体	男 n=(62)	女 n=(45)
家庭をもつ経済力がない	15.9	17.7	13.3
結婚をする時間的・心理的な余裕がない	15.0	17.7	11.1
結婚しても良いと思う相手にめぐり合っていない	14.0	16.1	11.1
年齢的にまだ若く独身でいたい	5.6	9.7	0.0
安定した職に就いていない	3.7	3.2	4.4
子育ての負担感	2.8	3.2	2.2
結婚後の家事への負担感	1.9	1.6	2.2

※選択があった項目のみ、性別不明の方を除く

問 6-5. 結婚支援として必要と思う施策はどのようなものですか。(自由記述)



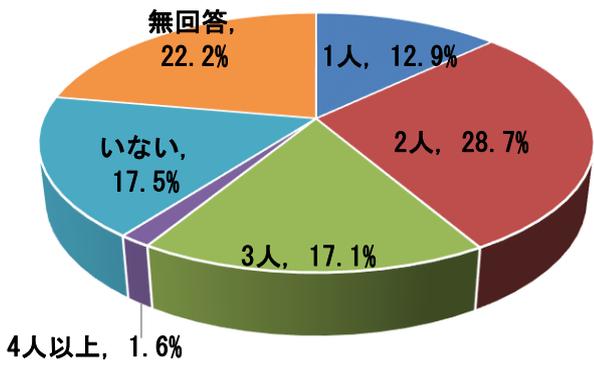
結婚支援として必要な施策は、前回より数は少ないですが、「出会いの場の提供」が多い状況ですが、次いで「経済的支援(補助金、祝い金)」、「安定した雇用と結婚しても暮らせる所得」といった結婚後の経済的な支援の必要性を感じている方も多くなっています。

## 7. 出産について

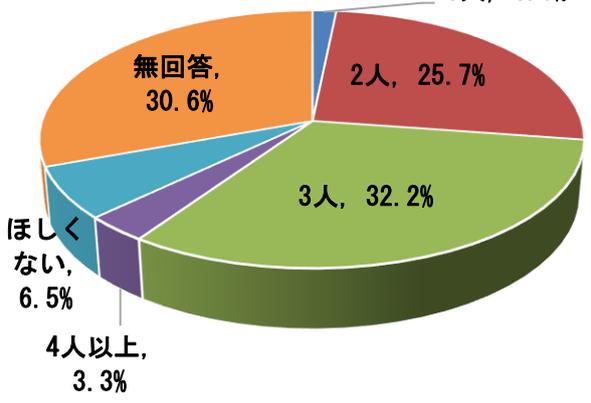
- 現在の子どもの人数は「2人」(28.7%) が最も多く、次いで「3人」(17.1%)、「1人」(12.9%) となっている。
- 「4人以上」(1.7%) も含めると、『子どもがいる』方は 60.3% 。
- 理想とする子どもの人数は「3人」(32.2%) が最も多く、次いで「2人」(25.7%)、「4人以上」(3.3%) となっている。
- 現実的な子どもの人数は「2人」(36.4%) が最も多く、「3人」(13.8%)、「1人」(9.8%)、「4人以上」(1.6%) となっている。
- 『現在の子どもの人数』と『現実的な子どもの人数』はほぼ同じ数値となっており、「2人」が約3割、「3人」・「4人以上」は約2割となっていますが、『理想とする子どもの人数』では3人以上を望む方が約3割いる。

問7-1. 子どもの人数についてお聞きします。(n=428)

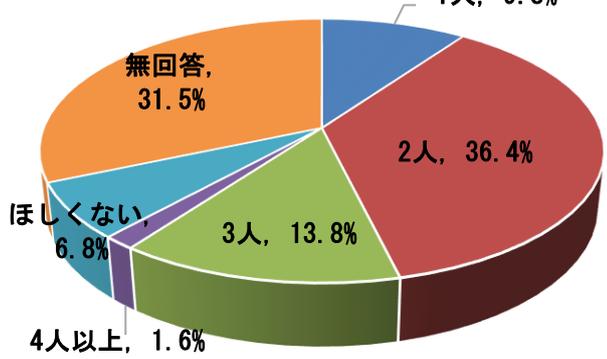
【現在の子どもの人数】



【理想とする子どもの人数】



【現実的な子どもの人数】

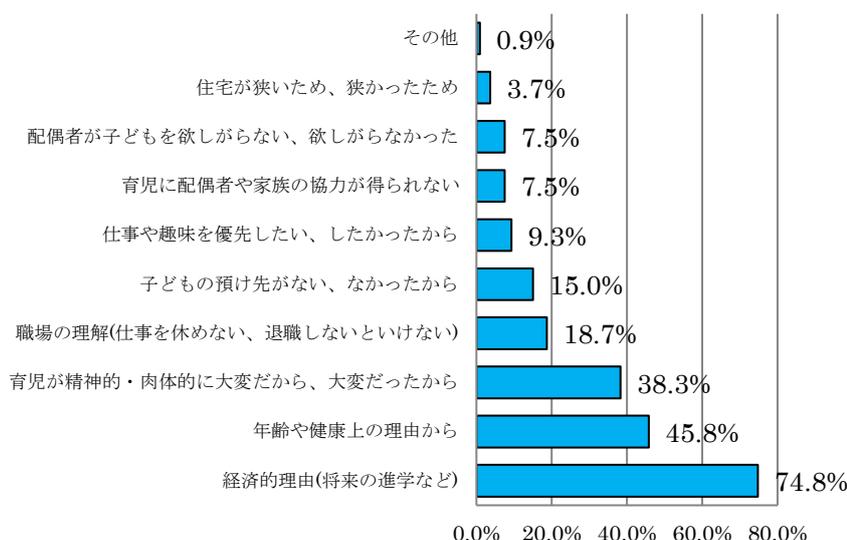


前回調査の、「現実的な子どもの人数」について、2人が33.1%、3人が15.7%に対し、今回調査は2人が36.4%、3人が13.8%となり、3人が減り、2人が増えている状況に変化しています。一方で4人以上は前回調査では1.3%で、前回より今回が増えています。

	平均	人
現在の子どもの人数	2.12	現実と理想とする子どもの差
理想とする子どもの人数	2.59	
現実的な子どもの人数	2.12	

※ 「4人以上」の回答を4人として計算  
 ※ 無回答、性別・年代不明の方を除く

問 7-2. 子どもがいると回答した方で、理想とする子どもの数より現実的な子どもの数が少ない方にお聞きします。その理由はどのようなことがあげられますか。(3つまで選択) (n=107)



理想とする子どもの数より現実的な子どもの数が少ない理由をみると「経済的理由」(74.8%)が圧倒的に多く、次いで「年齢や健康上の理由」(45.8%)となり、「育児の大変さ」(38.3%)、「職場の理解」(18.7%)「子どもの預け先がない」(15.0%)など、子育ての環境による理由によるものとなっています。

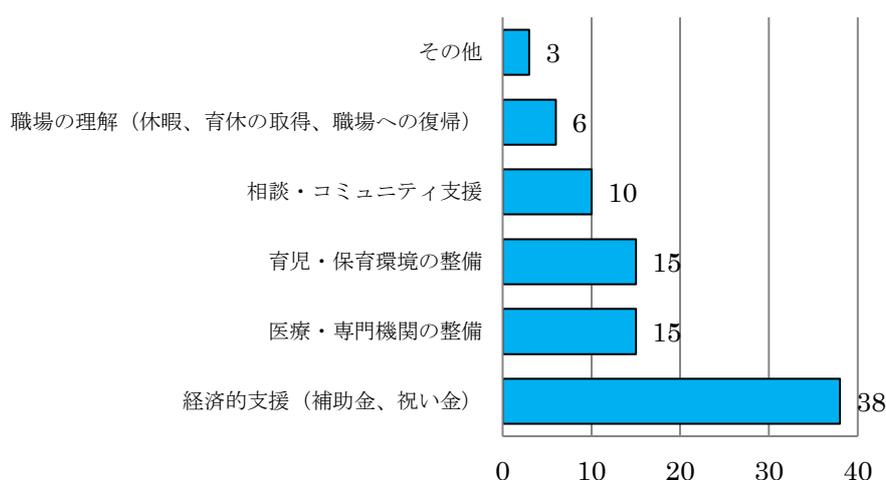
年代別に見ても全ての年代で「経済的理由」が最も多い結果となりました。経済的な不安が子どもの数に影響していることが伺えます。

単位：%

	男 n=(52)	女 n=(55)	10-20代 n=(4)	30代 n=(13)	40代 n=(24)	50代 n=(32)	60代 n=(28)	70歳以上 n=(6)
子どもの預け先がない、なかったから	6.1	3.3	14.3	2.9	4.3	4.6	5.8	2.3
職場の理解がない、なかったから	4.9	6.7	0.0	2.9	4.3	5.7	6.7	9.3
育児が精神的・肉体的に大変だから、大変だったから	11.7	12.2	0.0	11.8	12.9	5.7	18.3	9.3
将来の進学などを考慮すると経済的に難しいから、難しかったから	24.5	22.2	28.6	23.5	22.9	20.7	25.0	25.6
住宅が狭いため、狭かったため	1.2	1.1	0.0	5.9	0.0	0.0	1.0	2.3
年齢や健康上の理由から	15.3	12.8	0.0	5.9	11.4	19.5	12.5	20.9
育児に配偶者や家族の協力が得られないから、得られなかったから	0.6	3.9	0.0	0.0	4.3	3.4	1.0	2.3
配偶者が子どもを欲しがらない、欲しがらなかった	1.8	2.8	0.0	8.8	2.9	1.1	1.0	2.3
仕事や趣味を優先したい、したかったから	1.2	4.4	0.0	0.0	2.9	2.3	1.9	9.3
その他	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3

※無回答、性別・年代不明の方を除く

問 7-3. 出産支援として必要と思う施策はどのようなものですか。(自由記述)



出産支援として必要な施策は、「経済的支援(補助金・祝い金)」が圧倒的に多く、次いで「医療・専門機関の整備」、「育児・保育環境の整備」、「相談・コミュニティ支援」「職場の理解(休暇、育休、職場への復帰)」となっています。

経済的な支援の他、医療や保育の環境が必要とされていることが推測されます。

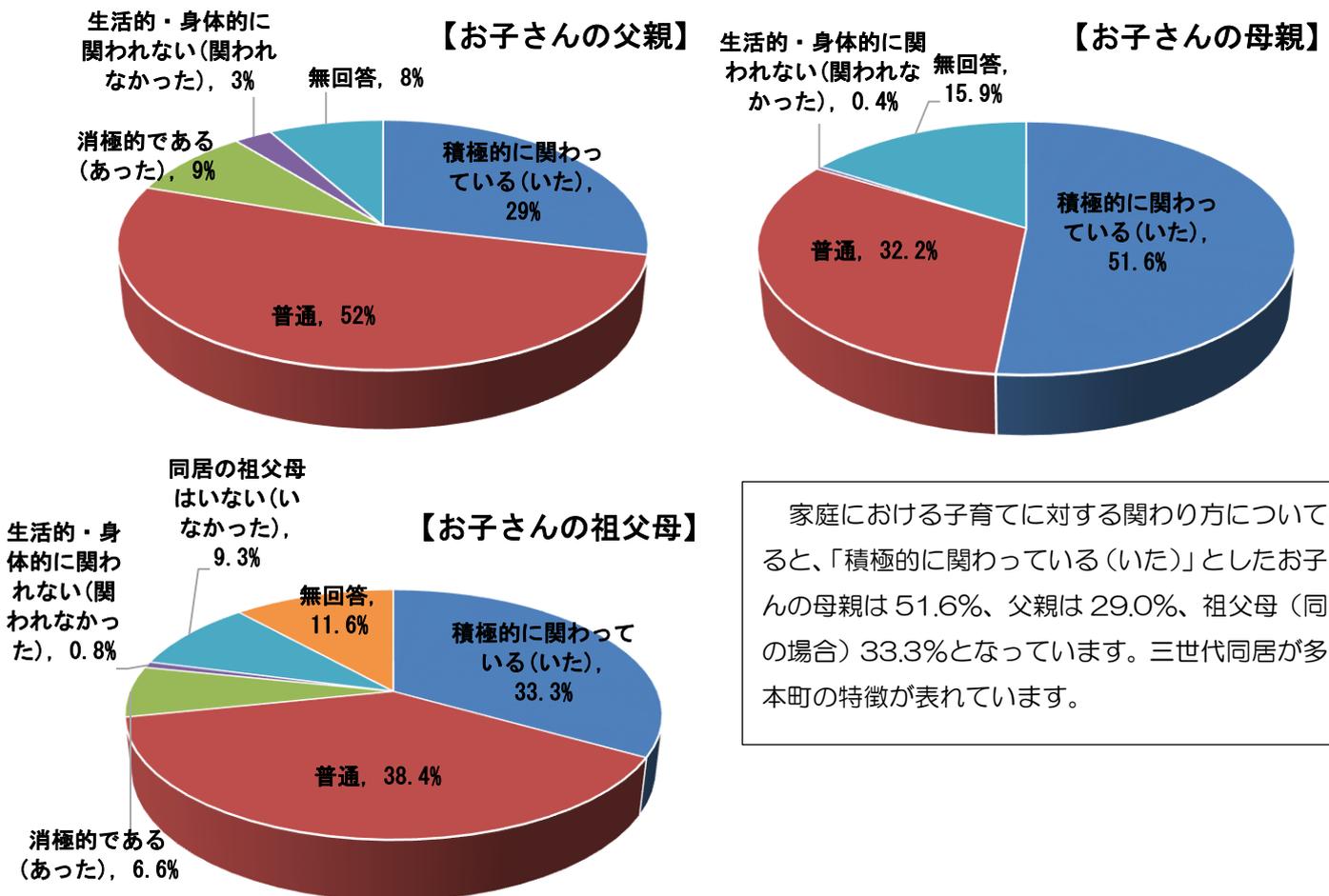
【その他の回答】

- ・出産の前に町民男女の結婚促進を。新婚さんの住宅支援を拡充するなど、結婚したら真室川に移住したくなるような支援はどうでしょうか
- ・父親の意識改革
- ・必要な支援はほぼ実施されていると思う

## 8. 子育てについて

- 家庭における子育てに対する関わり方については、「積極的に関わっている（いた）」としたお子さんの母親は 51.6%、父親は 29.0%、祖父母（同居の場合）33.3%となっており、三世帯同居が多い本町の特徴が表れている。
- 子育て施策の認知度については、「小中学校の給食費無償化事業」（認知度 53.0%）と「子育て支援医療費給付事業」（認知度 52.3%）が 5 割を超えているが、それ以外は認知度が 5 割に満たない状況にある。これは、子育て世代以外の回答も含んでいることが影響しているものと思われますが、特に開始事業年度が近年のものも含め、全体的な事業内容の周知（PR）の必要がある。
- 町の子育てのしやすさについては、「しやすい」（6.8%）、「ややしやすい」（15.2%）を合計した『しやすい』は 22.2%となり、前回調査の 23.6%と比較すると微減となり、「普通」が増えている。また、「しにくい」（2.3%）、「ややしにくい」（5.6%）を合計した『しにくい』は 7.9%と 1 割以下で、『しやすい』が前回と同様に上回っている。

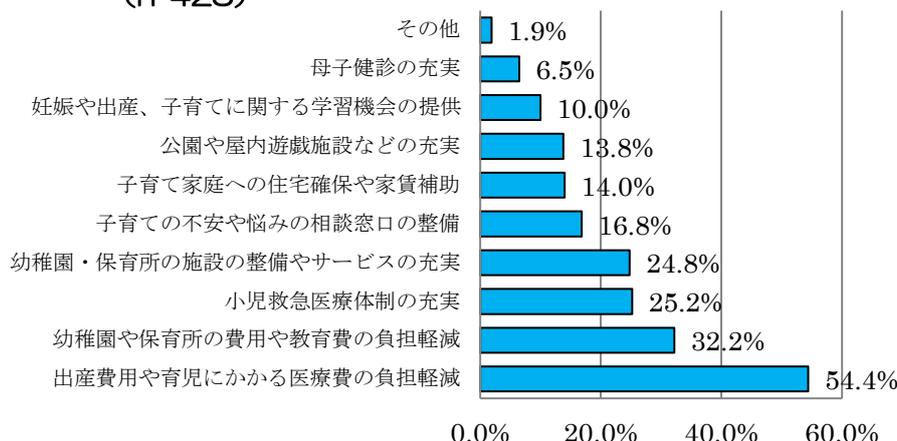
問8-1. あなたの家庭において子育てに対する関わり方はどのようなものでしょうか。  
問6-1で「現在子どもがいる（1～4を回答した）」方のみ回答（n=258）



家庭における子育てに対する関わり方についてみると、「積極的に関わっている（いた）」としたお子さんの母親は 51.6%、父親は 29.0%、祖父母（同居の場合）33.3%となっています。三世帯同居が多い本町の特徴が表れています。

問 8-2. 子育てしやすい環境を整備するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで選択)

(n=428)

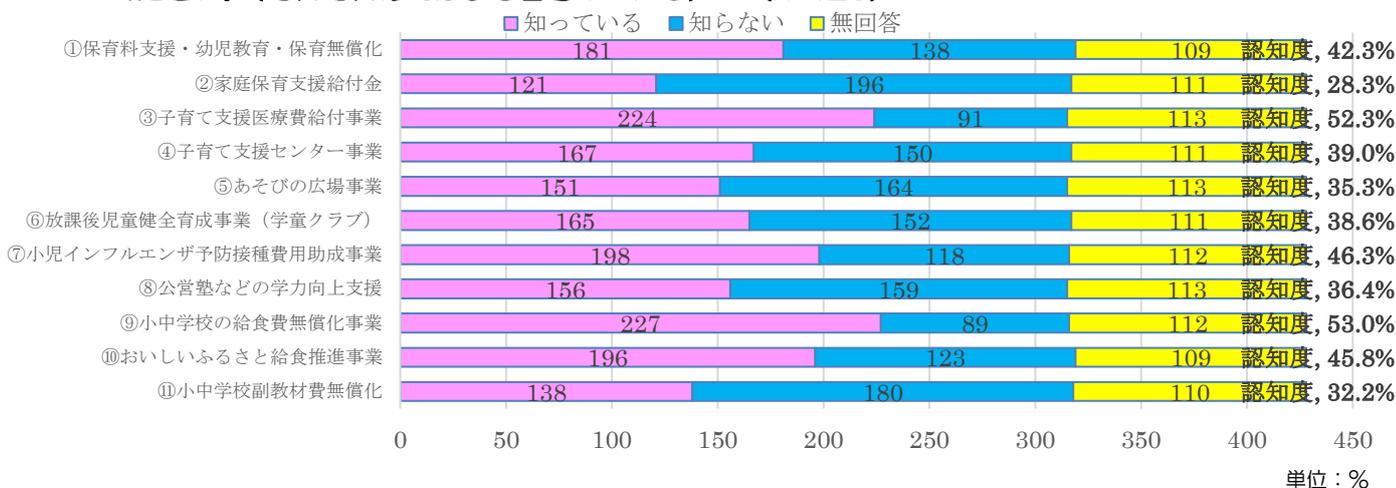


子育てしやすい環境として必要だと感じることは、「出産費用や育児にかかる医療費の負担軽減」(54.4%)が最も多く、次いで「幼稚園や保育所の費用や教育費の負担軽減(32.2%)となり、経済的支援が上位を占めています。また、「小児救急医療体制の充実」(25.2%)や「幼稚園・保育所の施設整備やサービスの充実」(24.8%)といった体制の強化も2割を超えています。

【その他の回答】

- ・各家庭が自由に使えるお金を増やす
- ・地域経済の活性化
- ・子どもの多い環境。遅くまで預かってくれる場所が必要
- ・町立病院では子供を診れないのが非常に不満
- ・トータルで支援することを考えるべき

問 8-3. 町では、子育て支援として以下の施策を実施しています。これらの施策の認知度について、お答えください。(それぞれあてはまる番号1つに○) (n=428)



単位：%

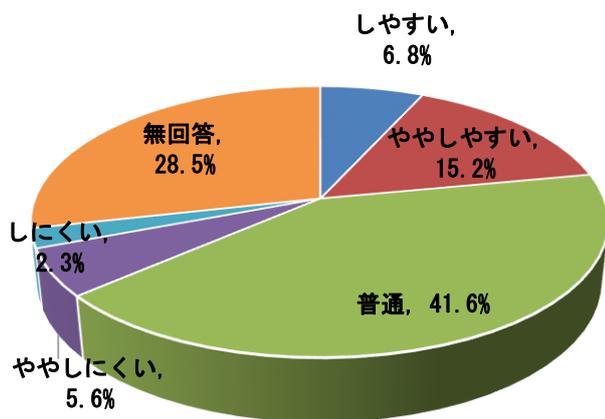
	男 n=(161)	女 n=(158)	10-20代 n=(29)	30代 n=(35)	40代 n=(47)	50代 n=(68)	60代 n=(93)	70歳以上 n=(47)
①保育料支援・幼児教育・保育無償化	53.4	59.5	27.6	74.3	72.3	48.5	59.1	53.2
②家庭保育支援給付金	36.6	38.6	20.7	62.9	42.6	38.2	33.3	34.0
③子育て支援医療費給付事業	62.7	77.2	62.1	74.3	87.2	77.9	63.4	57.4
④子育て支援センター事業	40.4	63.9	31.0	71.4	61.7	54.4	51.6	40.4
⑤あそびの広場事業	34.8	60.1	24.1	65.7	59.6	55.9	40.9	36.2
⑥放課後児童健全育成事業(学童クラブ)	44.1	59.5	31.0	57.1	63.8	50.0	51.6	51.1
⑦小児インフルエンザ予防接種費用助成事業	54.0	69.6	48.3	71.4	76.6	66.2	57.0	53.2
⑧公営塾などの学力向上支援	43.5	53.8	27.6	57.1	72.3	48.5	43.0	44.7
⑨小中学校の給食費無償化事業	67.7	74.1	51.7	74.3	85.1	69.1	75.3	61.7
⑩おいしいふるさと給食推進事業	53.4	69.0	55.2	82.9	83.0	63.2	53.8	40.4
⑪小中学校副教材費無償化	43.5	42.4	34.5	51.4	68.1	41.2	35.5	36.2
認知度の平均	48.6	60.7	37.6	67.5	70.2	55.7	51.3	46.2

縦列で最も高い値

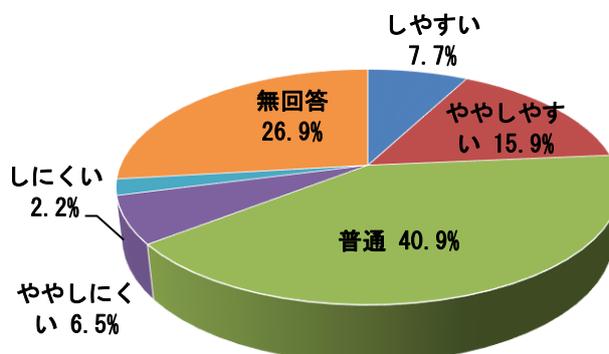
縦列で最も低い値

問8-4. 町の「子育てのしやすさ」をどう感じていますか。 (n=428)

今回調査



前回調査

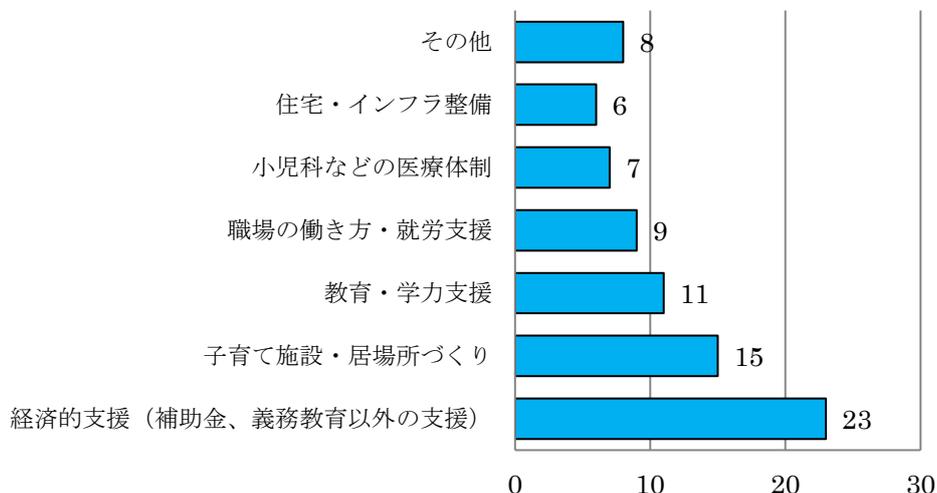


単位：%

	全体	男 n=(218)	女 n=(208)	10-20代 n=(44)	30代 n=(37)	40代 n=(54)	50代 n=(80)	60代 n=(118)	70歳以上 n=(95)
しやすい	6.8	5.0	8.7	4.5	24.3	13.0	6.3	2.5	3.2
ややしやすい	15.2	12.4	17.8	9.1	18.9	18.5	21.3	18.6	5.3
普通	41.6	45.4	38.0	34.1	32.4	40.7	45.0	50.0	35.8
ややしにくい	5.6	5.5	5.8	9.1	13.5	9.3	7.5	2.5	1.1
しにくい	2.3	2.8	1.9	2.3	5.4	3.7	1.3	1.7	2.1
無回答	28.5	28.9	27.4	38.6	5.4	14.8	18.8	24.6	52.6

※無回答、性別・年代不明の方を除く

問8-5. 子育て支援として必要と思う施策はどのようなものですか。 (自由記述)



子育て支援として必要だと思う施策は、「経済的支援(補助金、義務教育以外の支援)」が最も多く、次いで「子育て施設・居場所づくり」、「教育・学力の支援」となっています。また、「今のままで十分」という意見もありますが、問8-3でもあったように認知度の低い施策も多いため、周知(PR)の仕方を工夫していく必要があります。

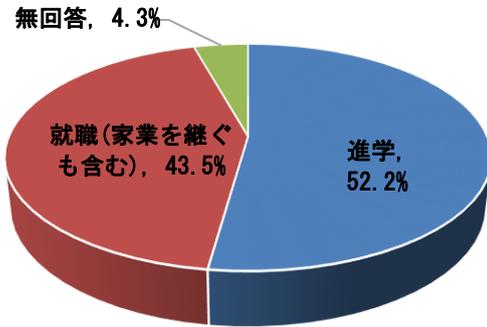
【その他の主な回答】

- ・保護者が自分の時間を作ることができるよう、サポートしてくれる人材の確保
- ・ゲームの時間が多いと思う
- ・スポーツ少年団の体制に変化が必要
- ・町の産物にふれあう場づくりと食べさせる企画をしていただきたい
- ・施設や学校を洪水の危険があるところや山の上の交通が不便な場所に作らない
- ・町全体の人口のボリュームアップ等がなければ、せっかく様々な支援策を講じて、活性化にはつながらないと思う
- ・まず、働く場を確保して若い人が集まれる場所が必要だと思う
- ・地元で勤務先がないと子供と関われる時間を取りづらい

9. 卒業後の進路について（※学生（在学中）の方のみ回答）

問9-1. 卒業後の進路についてお答えください。

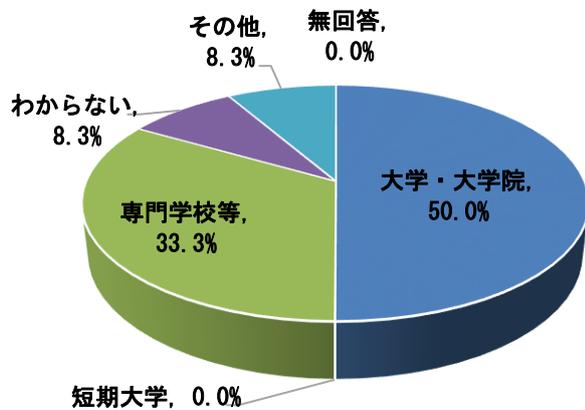
(1) 現時点における卒業後の進路志望をお答えください（n=23）



卒業後の進路志望については、「進学」が52.2%、「就職（家業を継ぐも含む）」が43.5%となっています。

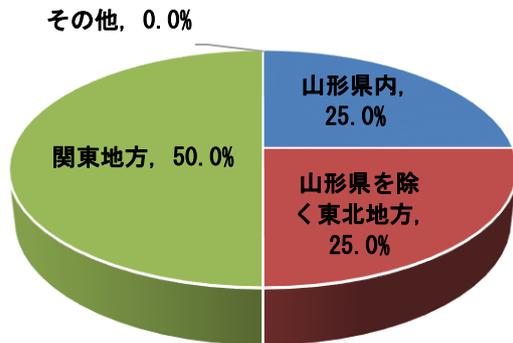
前回調査では「進学」が66.7%で進学を希望する学生が少なくなっている傾向があります。

(2) 現時点での第1志望先をお答えください（n=12）



現時点での第1志望先については、「大学・大学院」(50.0%)が最も多く、次いで「専門学校等」(33.3%)、「わからない」(8.3%)となっています。前回調査の「専門学校」は6.7%で、今回は大幅に増え、より専門性が高い進路を希望する割合が高くなっています。

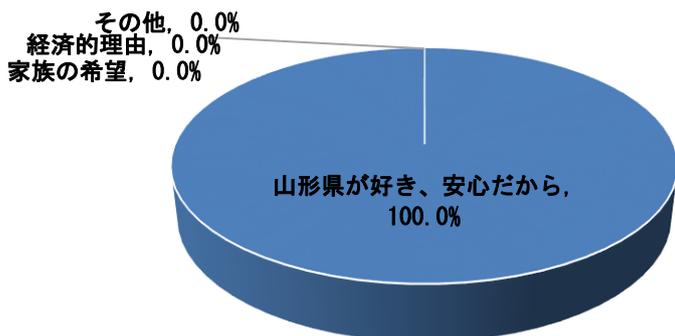
(3) 進学を希望する大学等の立地条件をお答えください（n=15）



進学先の立地条件については、「関東地方」(50.0%)が最も多く、次いで「山形県内」(25.0%)、「山形県を除く東北地方」(25.0%)となっています。

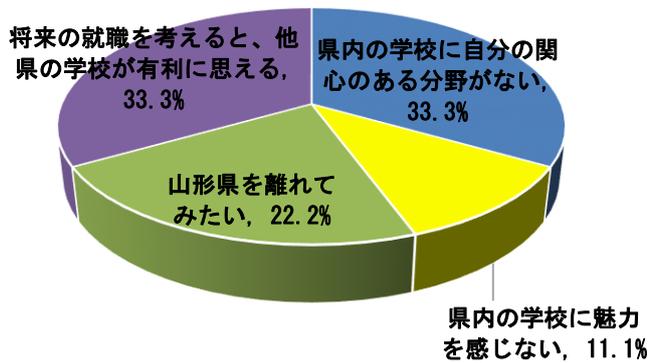
前回調査の「関東地方」は6.7%で、関東地方の学校を希望する方が多くなっています。

(4) 進学先として山形県内を選んだ理由をお答えください（n=3）



進学先として山形県内を選んだ理由については、「山形県が好き、安心だから」(100.0%)となっています。

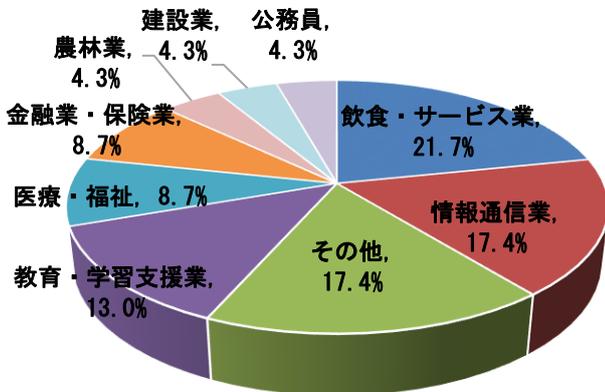
(5) 進学先として山形県外を選んだ理由をお答えください (n=9)



進学先として山形県外を選んだ理由については、「県内の学校に自分の関心のある分野がない」(33.3%)と「将来の就職を考えると、他県の学校が有利に思える」(33.3%)が多く、次いで「山形県を離れてみたい」(22.2%)、「県内の学校に魅力を感じない」(11.1%)となっています。

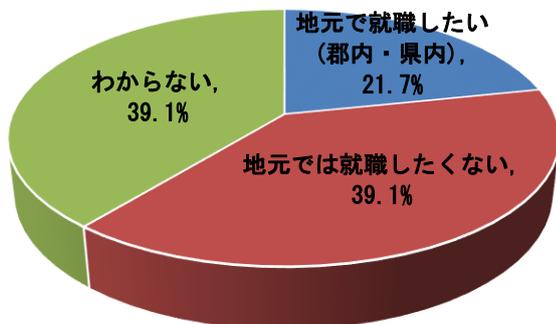
問8-2. 将来就きたい仕事についてお答えください。

(1) 現時点における就きたい職種(業種)をお答えください (n=23)



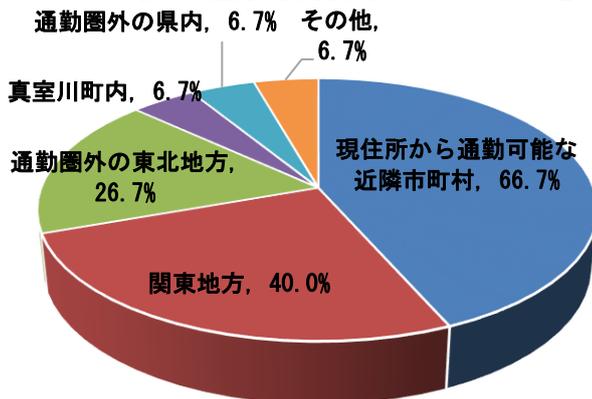
現時点における就きたい職種(業種)については、「飲食・サービス業」(21.7%)が最も多く、次いで「情報通信業」(17.4%)、「その他」(17.4%)となっています。「その他」では作家との意見がでています。前回調査では公務員が最も多く、次いで「医療・福祉」でしたが、職業の多様化が影響し、今回の結果となったと推測されます。

(2) 地元で就職したいとお考えですか (n=23)



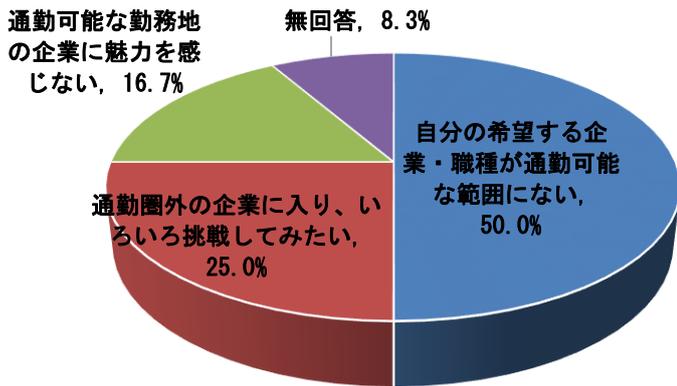
地元で就職したいかについては、「地元では就職したくない」(39.1%)と「わからない」(39.1%)と多く、次いで「地元で就職したい」(21.7%)となっています。

(3) 将来希望する勤務地について、お考えに最も近いところはどこですか (n=23)



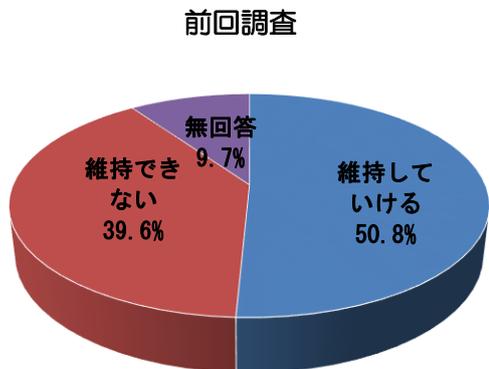
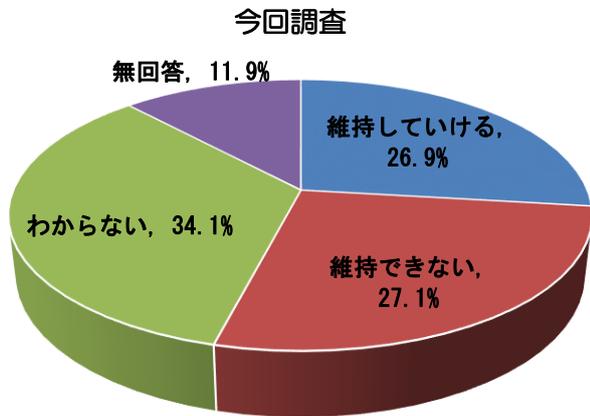
将来希望する勤務地については、「現住所から通勤可能な近隣市町村」(66.7%)が最も多く、次いで「関東地方」(40.0%)となっており、「真室川町内」は(6.7%)となっています。

(4) 将来希望する勤務地として、県外を選択した理由をお答えください



将来希望する勤務地を県外にした理由については、「自分の希望する企業・職種が通勤可能な範囲にない」(50.0%)が最も多くなっています。

10. あなたは、5年後も今のお住まいの集落が地域活動を維持していけるか (n=428)



5年後も今のお住まいの集落が地域活動を維持していけるかについては、「維持していける」が26.9%、「維持できない」が27.1%となっています。

また、30代、40代では「維持していける」が「維持できない」を上回っています。50代では「維持できない」が「維持していける」を上回っています。

前回調査では「わからない」の項目を設けていませんでしたが、前回調査と比較し、「維持していける」が多かったのに対し、今回は「維持できない」が「維持していける」を若干上回っており、前回より地域活動の維持に不安がある割合が増えています。

単位：%

	全体	男 n=(218)	女 n=(208)	10-20代 n=(44)	30代 n=(37)	40代 n=(54)	50代 n=(80)	60代 n=(118)	70歳以上 n=(95)
1.維持していける	26.9	28.0	26.0	22.7	43.2	31.5	27.5	29.7	15.8
2.維持できない	27.1	27.1	26.4	31.8	18.9	29.6	37.5	21.2	25.3
3.わからない	34.1	33.5	35.1	40.9	35.1	29.6	30.0	37.3	32.6
無回答	11.9	11.5	12.5	4.5	2.7	9.3	5.0	11.9	26.3

※無回答、性別・年代不明の方を除く

## 11. 自由記述

あなたは、今後真室川町をどんな町にしていきたいと思いますか。また、これからのまちづくりに対するお考え（要望・ご意見）がありましたらお聞かせください。

◆自由記述欄に意見を記入した人は136人と、有効回答者（428人）に対する記入率は31.8%でした。集約した意見を項目ごとにまとめると以下のとおりとなっています。なお、各個人の意見を項目別に分類している場合もあるため、以下の回答数と実数は異なります。

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
農林業 8件	有害鳥獣駆除の担い手が減少している問題に対して、免許取得費用補助をし、被害拡大を防いでほしい。	20代 男性
	熊の駆除をしてほしい	40代 女性
	自分が子どもだった頃と比べて、近所の農家の顔ぶれが変わっていない。自分を含め、農家の子供が同世代にはたくさんいたが継いでいる人は少ない。町の産業を守るだけでなく、景色を守る意味でも就農に対するハードルを下げる必要があると思っている。	20代 男性
	5年後、地域の方々は高齢化し、農業も維持できなくなると今よりイノシシ、熊、サルが近づき、田畑を維持していくのは困難に思われます。未来を前向きに思い描きたいのですが、真室川だけの問題ではないと思います。	50代 女性
	若い世代が真室川町に住み続けたい活動に進んで参加できる農業をしてみたいと思えるような町にしてほしいと心から願います。	40代 女性
	個人農家又は地域の担い手に対する法人、団体とは別に補助金等の支援事業(認定農家でなくても)を考えてもらいたい。また各地区で問題となっているイノシシやクマ等で耕作放棄地を減らす目的としてトラクター作業機のモアや自走式モア、草刈機の購入補助を地区または地区を代表する農業者に出す事でイノシシ等の害獣が好む耕作放棄地の草刈や堤防などを減らす事ができると思う。	30代 男性
	閉鎖的で暗いイメージ。森林が多いのでしかたないが、高齢化に町自体なっている。今の時期、道路脇の草も刈られず道に飛び出している。熊、イノシシ、蜂等の危険性を防災放送で聞くが、ヤブや雑木がたくさんあり、車運転でも怖い。自然は大事だが、少しでも見た目明るくなると、違うのではないかと思います。	50代 女性
	熊、猪が来ることが困ります。	70歳以上 女性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
商業 21件	編物や小物の販売を進めてほしい。	50代 男性
	駅前通りを何とかしてほしい。	50代 女性
	スーパーと銀行のATMがあつたらいいと思う。	50代 女性
	子供達が地元で進学、就職したいと思えるような町であってほしい。	50代 女性
	資格取得支援事業への補助金など、子育て世帯の経済的負担をサポートいただきたい。	20代 男性
	買い物をする店がない。新庄まで行けるうちはいいけど年をとると運転も心配。人口が減り、地域もさみしくなってきた、地域活動も減っている。	60代 女性
	スーパーの誘致、企業の誘致	60代 男性
	飲食店が無いので何とかしてほしい	50代 男性
	駅前通り周辺の活性化（環境整備）等取り戻す対策を重要課題としてきれいな町づくりをアピールする。	60代 男性
	若い人が都会に流出しているのが現実。豪雪、働く場所のなさから仕方ないことかもしれないが、そこをなんとか知恵を出し合って解決していきたいものです。	60代 女性
	スーパーを誘致してほしい	60代 女性
	町中心部でも商店が閉店している状況で、それ以上に他の地区でも少なくなっている。日常必需品を購入しようとしても車で行かなければならないが、免許返上も考える年齢です。バスを使うことも考えるが毎日も行けず、不安。	70歳以上 女性
	ショッピングが楽しめる町（集合市場等）	70歳以上 男性
	商店飲食店が少なくてももっと活気のある町であってほしいです。働く場所も少なく、人口がだんだんに減ってしまうと思います。	60代 女性
	もっと飲食店やスーパーができるといい。	50代 女性
	第一次産業はもとより、第二次、第三次産業も色々な仕事に挑戦できる仕組みと、やりたいこと、やれることを自分で考え、そして稼げるよう頑張れる人に育てていけるよう、地域の大人の考え方を換え、仕組みを作って行かなければならないのでは…と思います。	60代 男性
	商業施設の活性化を希望します。町を出て買い物を済ませなくても良くすれば町離れが少なくなると思う。	20代 女性
1日郷野目を使って何かできないか？スーパーがマックスバリュだけだと人が集中しすぎるため、商店街、商工会加盟店で品を持ち寄った総菜屋でも用いたらどうか？	40代 女性	
現在、食品がメインのスーパーが1店だけなので、欲しい食材が売り切れの 때가あり、何かと不便です。ドラッグストアは2店あるのですが、野菜や魚系はほぼないです。週末などに新庄の方まで行かないといけない状況です。人口増加のためにもスーパーなどの誘致に力を注いでいただきたいです。住みたい町になればいいなと思います。	40代 女性	

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
商業	企業誘致などで若者の町外流出を防ぐ	60代 男性
	全国的に高齢化が進んでいるが、中でも、当町は高齢化率が高まっていると思う。私は30代の時、東京からUターンしたが、それから46年、現在のよ うに不便な地区になることは想像できなかった。70代で一番不便なことは、地 区内に商店が無くなったことです。まだ、車を運転出来ますが、免許返納ともな れば不安です。多くは望まないが、身近な居住環境は改善していただきたい。	70代 男性
	町の魅力を高め、人口増加と空き家の減少、店舗・飲食店の増加、活気のある町 へ。ふるさと納税の推進（特色ある返礼品） 道の駅など、何らかの商業施設の新設。	50代 女性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
医療 5件	町立病院の在り方。地域にあるのに、急患など断られることがある。夜間、新庄 までいけない場合など、せっかく町内にあるので、もう少し対応してほしい。	50代 男性
	町立病院の医師を増やしてほしい	50代 男性
	医療については、町立病院の維持が重要とっており、新聞で県より医師派遣の 増員との記事を読みよかったと思っています。今後も医師や看護師等医療従事者 の待遇改善について検討していただければと思います。	60代 男性
	医師の確保を最優先にやっていただきたい。	70歳以上 男性
	医療について、町立病院経営などに力を入れ、今以上に真室川町の良さをアピ ールしてほしい。	30代 女性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
交通 8件	中学、高校と通学が不便なので、交通手段も改善してほしい。	50代 女性
	移動手段を確保してほしい。	60代 男性
	バス利用の交通のルートを増やしてほしい	40代 男性
	老人になってもきちんと生活して行ける様にしてほしい。車を運転出来なくな ったら何も出来なくなりそうなので、バスやタクシーの充実を望む。	50代 女性
	老人になっても生活に必要な買物が出来る様に移動販売や地域で生きていける手 段を考えてほしい。	60代 女性
	交通、列車、道路ともに便が悪い。車数は少なく、車専用道路への道も長くデコ ボコ衝撃で車載カメラが起動し録画する。 オンデマンドバスへの変更。現行のバス空席だらけで勿体ない。高齢者の車運転 で買物に行くのではなく移動販売など、町で手を打って欲しい。	60代 男性
	駅に券売機を設置してほしいです。	10代 女性
	高速道路も通るため、道の駅までとはいかないとは思いますが、今以上に真室川 町の良さをアピールして頂きたいと思います。	30代 女性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
雇用 15件	若者の定住対策、職場を確保してほしい。	60代 男性
	民間の会社を誘致いただきたい。	50代 男性
	企業の誘致など前向きに検討していただければありがたい。	60代 女性
	働く場所がたくさんあれば、大学卒業後もどってくるのではないだろうか。大企業誘致し、収入を得て生活できるようにしてもらいたい	60代 女性
	会社の誘致など仕事場を確保してほしい。	60代 男性
	他の市町村のように企業が町内に進出してくれるような環境を整えてほしい。法人が増えれば働き先又は町に入ってくる税金も増えるのではないか？近くだと金山町を見習って欲しい。	60代 男性
	住みやすい環境作り推進してもらいたい。働ける場所を育成していけば、安定的に定住されると思います。	70歳以上 男性
	誘致企業、200～300人規模の会社が有り、若い人が勤務出来れば、結婚、子育てが身近に出来る？ 人口減少の歯止めがない現状では（当町ばかりでなく）税金負担が多くなる？	60代 男性
	子育てが充実していたとしても、進学や就職で地元を離れてしまう人がほとんどです。農業振興及び企業誘致で雇用を創出し、現役世代が定住し続けていけるような施策を考えていただきたいと思います。	40代 男性
	若い人が働ける工場がもっとあったら人口も増えるのではないかと思います。	60代 女性
	「まちづくり」とは真室川町の発展を願ってのことだと考えます。発展するとは何かを考えたときに、やはりそれは真室川町の経済の発展をどのように行っていくのかということに至ります。これまでも「まちづくり」についての取り組みはあったのだと思いますが、結果的に町が発展している感は全くありません。県外から真室川町への企業誘致はあったのでしょうか？ほぼありません。もしも私ならば高速道路のインターチェンジ付近に道の駅を作ったり、企業誘致を行ったりしようと考えますが、いかがでしょうか？企業誘致をする際も交通の便の良いところに企業は興味を持つのではないのでしょうか？そういうことを考えて取り組むことが「まちづくり」になると思います。真室川町の発展となることが、住民の皆様が期待することだと思います。	50代 男性
	仕事場（就業）の増加	60代 男性
	企業誘致など、若い方達が町内で働きたいと思うような町づくりを目指してほしい。	40代 男性
	他の町からも来るような、職場を増やしてほしい。	50代 女性
	給料が少なすぎるため家や土地を買う余裕が全くない将来に不安しか感じない。	30代 女性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
福祉 12件	誰もが健康で取り残されることのない町にしていきたい。	50代 男性
	老人が生きがいを持って楽しく暮らしている町（若者が将来に希望が持てるように）	70歳以上 男性
	1人暮らしの老人が入れる、低額な施設がほしい	50代 女性
	子供からお年寄りまで健康で活力ある町であってほしいです。	60代 女性
	福祉のまち、年寄りも障がい者も安心して生活できるまち	70歳以上 男性
	老人への食事や集会の機会を与えてほしい。	50代 男性
	高齢者が多くなる町で、子育てや教育等ばかりでなく、高齢者にも支援が必要だと思います。	50代 女性
	高齢化が進み、交通の便も悪いし、雪が多いし、買い物も大変である。病院も町立病院しかなくて、車を運転できなくなると大変不便だと思う。	60代 女性
	高齢者、障がい者、母子家庭、父子家庭に該当しない世帯の補助金を望みます。補助金の案内はありますが、同居家族の誰かに収入があると該当しない事を知らなかったため、世帯単位ではなく夫婦の収入の状況を考慮していただきたいです。	40代 女性
	自分が高齢者になった場合、住むには難しい町だと考えます。除雪交通インフラ等を考えると、今現在住んでいる場所での生活は、年をとればとるだけ望みたくないと思います。生産年齢人口の増加社会保障費の減少を望みますが、、、医療介護福祉を受けられる町であってほしいです。	50代 女性
	人口動態的に仕方がないことだが高齢者が多く、若者が少ない。高齢者が入院すれば自宅に戻るのが難しい。肥満の高齢者が多すぎる。今からでも地域全体で将来、寝たきりにならないような取り組みをすべき。	50代 女性
	今、子供達減少で若い人たちへの支援があるのはとても良い事ですが、反面人口も高齢化してきており、そちらの方の支援や援助、介護などの精神的な部分に対する対策はあるのでしょうか、あまり私達の認知がないように思われます。これからもどんどん高齢化していく中で、この町で過ごして行く事も少し不安です。このあと10年後、20年後どうなるか。	50代 女性
高齢化に対する対策を充実していただきたい。	60代 男性	

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
インフラ 3件	5年、10年後真室川町は真室川を除き、ほぼ限界集落になる。40年前と比べれば人口は半分しかいない。人口が半分になったということは、金山町が消滅している事実をどうとらえるのか。道路だって粟谷沢から北はつぎはぎだらけ、白線はない。止まれの標識すらまともでない。	70歳以上 男性
	住みやすい町、県道の補修を要望する。	60代 男性
	災害対策を充実し、災害に強い町づくりをしていく。	60代 女性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
地域 14件	集落を合併してできればよい	70歳以上 男性
	まちづくりに対する考えや思いが行政と住民とは温度差があると思うので、住民が興味や関心を持つような政策が必要と感じます。	40代 男性
	高齢者の増加のため維持が困難だと感じます。集落活動の崩壊などが課題で、後継者の確保をするために積極的な政策を期待します。	50代 男性
	70代の自分達には、未来が短い日々です。これからの日々は、最大限元気な体を保ち、この地で出会った仲間と、食事会やバス旅行等楽しみながら、昔を語り合って過ごしたいと思います。	70歳以上 女性
	何しろ高齢化若い人が少なく、頑張っても続けていけない現状があると思います。	30代 男性
	自分が住む町を暮らしやすくしていく政策には住民が協力的でなければならないと感じるが、協力的でない気がする。町内の様々な魅力を発信したり、住民に知ってもらえるようなイベント等を続けてほしい。	50代 女性
	集落が13世帯と少なく、地区の共同作業があまりにも多く高齢者世帯にとっては負担が重すぎる。(高沢地区)	70歳以上 女性
	限界集落にならないように努力したい。	70歳以上 女性
	少子高齢化で人口が減少していく中、集落機能の維持が難しくなってくると思います。私が住んでいる集落でも5年後は大丈夫だと思いますが、10年以上先を考えると若い人がいなくなっているのが大変なことになると思います。解決策は思いつきませんが若手で地域づくりについて行動を起こし始めた人もいますので、できるだけ協力したいと思いますし、町としても今以上に支援をお願いします。	60代 男性
	今未亡人の人達も増え悩み事や、楽しみがある場所あったら少しでも参加する機会がある場所がほしいです。 体が動けなくなる前に楽しい出来事や親睦を計る場などがあると良いと思う 部落の公民館などで楽しい事するなど！	60代 女性
	地域の意見交換が出来る場所(機会)が少子化の影響により無くなった(地域の祭り等)為、人との関わり合いが減ってきている。地域毎や町として町民が交流する場(機会)を設ける事が必要と思慮。	40代 男性
	高齢者と若い世代が交流し、互いの知識、経験を共有できる町	60代 女性
	行政のみに依存しないで行動できる町民性を育てる。	50代 男性
	私は農家ですが、未来が不安でしかありません。数年先のことも考えられない地元の方々とは、話になりません。 政策とは未来のことを考えて問題を未然に防ぐことだと思うので、頭の凝り固まった老人達を説得して、未来ある若い人々が過ごしやすい、働きやすい真室川町にして欲しいと思っています。	60代 男性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
観光 イベント  10件	町の春夏秋冬の美しさと食の豊かさを全国にアピールする。 春祭り、夏祭り、ホワイトアスロンはとても良い事業だと思う。旅行会社とタイアップし、交流人口を呼び込む。	70歳以上 女性
	梅里苑のサービスを向上してほしい。	50代 男性
	なぜ若い人が集まらないのか、人口が減っているのか、楽しめる場所や名所がないのでは、祭りやイベントも中途半端な感じがする。	60代 女性
	若者の力や中高年の力を生かせるものづくり、マンホールの色彩とか、梅のパフェとか特色ある映えやアニメの聖地をめざすとか、お金のかからない現地の外国人との英会話や肉球のおかしとか、ニュースをみていると特殊なものがきっかけになると思う。保守的だしどنگりの背比べになりやすい。	60代 女性
	町婚活に力をいれてほしい。	50代 男性
	今現在は町の観光名所も無く、特産品も無く店も遊ぶところもない。人口減少に歯止めがかからない。自然が豊かであっても住みにくい場所になりつつある。	60代 女性
	比較的災害の少ない町だと思う。うまく産業を興せれば以前のような賑やかさを取り戻す事も可能ではないだろうか。里山改革で自然を売りにした事業をすすめ、人を呼び込む事を考えてもらいたい。	60代 男性
	町の魅力を内外に知ってもらう機会を、今も皆さんのアイデアと努力で作っているとしますし、TVでも取り上げてもらって、とても良いと思っています。これからも町の資源や歴史、特産品などを活かした町づくりを進めていけたら良いと思います。 また、新しい中央公民館や駅前商店街などに人が集まるアイデアを、町民一人一人が出し合えたらいいなと思います。	60代 女性
	交流人口を増やして、町の良い所をアピールする。（宮城県（仙台）福島などに町のおいしいもの、おばあちゃん達の料理など親子で楽しめる自然に触れ合う物など）	70歳以上 女性
	とにかく人が居ないと衰退する一途だと思います。似たような支援や常識的な普通の町には人なんて絶対集まらないので、大胆なコンセプトの町にする必要があると思う。メディアが取り上げる。SNSで話題になる。そのようなキッカケを作らないと真室川町は見向きもされないと思う。賛否両論が出るような常識にとられないコンセプト、大胆な町に期待したいです。	40代 男性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
住宅  3件	今後一人暮らしの方々は増えてきます。そうした人達を例えば新庄市の公立住宅に安価で住ませ、老人達の体の安全も効率よく介護する事も出来ます。大胆な変革を他の自治体と協力して進める必要があります。	70歳以上 男性
	住んでいる所も中央に集約してもいいと思う。	60代 女性
	住居が点在せず、数カ所の集合住宅に集約された町。	70歳以上 男性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
雪対策 7件	真室川町は住み良い町だけどネックは雪で、歳とったら除雪できないので住み続けることは困難である。子供達は、雪の降らない所へ出て行ったので、将来は子供のところに行くしかないと思う。	70歳以上 女性
	冬の生活が大変	50代 男性
	除雪の充実を希望する。特に日曜など出勤も遅いし、以前と比べると雑と感じる	60代 女性
	除雪が楽な住居の町	70歳以上 男性
	要望として、除雪車にGPSを搭載してどこを走っているか分かるようにしてもらいたい。せっかく除雪してもその後直ぐに除雪車が来てガッカリする事が非常に多い。これだけ高齢人口が多いのだから、お互い効率よく作業したい。	60代 男性
	私は当町に生まれ育ち、転勤の仕事について関係で転出入を繰り返した人生を送っておりますが、真室川町が好きで、他所に家を建てようと思ったことはありません。しかし、2005年の新聞報等で、国立社会保障人口問題研究所の試算で2100年の真室川町の人口は395名との衝撃の数字を見て大変びっくりするとともに、全国的に人口減少の問題は避けられない問題だと思ってきました。町当局様としても、人口減少の問題には日々腐心されていることと思います。重要な問題ですので、町民皆がしっかりと考えることも必要ではと思います。又今後人員や予算の問題が大きいとは思いますが、きめ細やかな除雪対応をやっていただきたいと思います。	60代 男性
	雪対策の強化	60代 男性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
移住 5件	県外から人が集まるような町づくりを要望したい。	50代 男性
	移住してみたいと思える町になって若い人が増えてくれるといい。	50代 女性
	ずっと住んでいたい又は真室川町に移住したいと思ってもらえるような住みやすい町にして欲しいです。	20代 男性
	私は、真室川町で生まれ育って、長い間離れていましたが、また真室川で暮らしたいとずっと思っていました。私のように、真室川が好きでまた暮らしたいと思っている人は多いと思います。 住居の事や仕事の事、UターンやIターンを考えている人が相談しやすい場があり、真室川を好きな人が沢山戻ってこられる、暮らしやすい町になればと思います。	40代 女性
	いまま移住している方がいるとは思いますが、もっともっと町のアピール、よさを宣伝し、人口が増えればと思います。手厚い制度をお願いします。	70歳以上 女性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等	
教育・子育て 23件	子どもを育てやすい環境が整っていくことを期待してます（夏場楽しめる噴水等があれば理想です）。	30代	女性
	必要最低限の新規箱ものは必要だと思います。子供から大人まで集まることが出来る施設があればと思います。	60代	男性
	子どもが少なくなってきたので、子供会の必要がないと思う。→親も共働きだし、スポ少等で日程も合わない、部落との付き合いがあまりないため部落のイベントに子供会が参加する時に連携できない。 無償化がとてもありがたいです。→最低賃金が上がっても、ガソリン代等、生活費で金銭面きびしいかなと思う。	30代	女性
	小学校を統合してはと思う	60代	女性
	屋内で子供達が遊べる施設を作って欲しい。公園を整備したとしても、雨が多く雪の時期が長く、子供が楽しく過ごせる場所が欲しい。（家の中での工夫にも限度がある）	40代	男性
	中学校への送迎が大変なので、スクールバスを運行してほしい	40代	男性
	今の子供（園児、小、中、高校生）が将来にわたって町に住み続けられるよう、大学に入っても必ず帰ってこられるような政策はないものか？都会にあこがれるのは誰でもそうなので帰ってきて生活できる対策（住宅支援や一部生活費の補助、税金の有限免除）をして、大学生にふるさと通信で情報提供してもらいたい。小学生のうちからどんどん事務所、仕事見学をさせてほしい	60代	男性
	子供達のつながりがどうなのかわかりません。学校ではどうなのでしょう。遊びの声も、学校の行き帰りの様子も見ることがありません。「おはようございます」「さようなら」の声は聞こえなくなりました。	70歳以上	女性
	今子供達の遊び場が秋山に出きとても良かったと思う。コロナがふえても真室川町ばかりではなく及位や安楽城にもあったら、みんなが会話がいき子供達もはっさんで良いのかなーなんて個人的に思っている。老人も運動できボケ防止にも又、楽しみが増えるのでは？	60代	女性
	少子化対策をしっかりと、人口がこれ以上減らないようにしなければならない。子供や若い人がいれば活気ある町になるはずです。	40代	女性
	子ども達に真室川に住み続けてもらう為に、真室川町に定住してもらえるように、訴える機会を学校で行ってもらいたい。また子どもがいる世帯には、例えば3人目以上子どもを産むと3人目からは、町の援助を厚くし、一人でも多くの子どもが生まれ、活気ある町に戻って欲しい。	60代	男性
	子育てのしやすい町にしていきたい。新庄市に行く事無く、真室川町だけで完結できるような医療体制を整えるだけでも子育て世代には魅力的に思えるし、何より中継地点があるだけで、町内外に住んでいる人達は安心できると思う。差首鍋や及位などは、県立までもすごく時間がかかります。早急に検討の方よろしくをお願いします。	30代	男性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等	
教育・子育て	若い人が住みやすい町、子供が多くなれば良いと思う。産休中のお金が何も出ないので核家族は普通に生活するのも大変になるので、その間の補助金などがあると良い。片親の手当も、収入で変わるのはどうかと思う。あと女性の方が収入が少ないので、検討してほしい。	20代	女性
	子どもの頃からの地域への信頼が高まるような町にしていきたいと思う。特に教育の面では、中学卒業後、他市町村の高校に入学しなくても、真室川町で充分高校生として多様な経験をし、十分な学力が身につけられる、そういった教育環境の整備が必要だと思う。また、進学、就職で町外の学校や職場に入学、就職するとしても、町からの人口の流出を防ぐためにも、交通の便を良くした方が、良いと思う。そうすれば、真室川町を信頼できる”帰るべき場所”にできるのではないだろうか。	10代	女性
	こども園、小学校、中学校、高校と多くの子どもたちの笑顔があふれる町が理想ですが、どこも人口減少でさびしい限りです。 自分が小学生、中学生の時は今の孫たちより3倍の人数があり、町も活気があったとなつかしく思うこの頃です。	60代	女性
	小児医療の充実化、引き続き、福祉や子育て支援の充実させてほしい。	40代	女性
	子ども達に真室川に住み続けてもらう為に、真室川町に定住してもらえるように、訴える機会を学校で行ってほしい。 また子どもがいる世帯には、例えば3人目以上子どもを産むと3人目からは、町の援助を厚くし、一人でも多くの子どもが生まれ、活気ある町に戻って欲しい。	60代	男性
	今ある3つの小学校を合併してほしい。人数が少なすぎる学校は友達関係も限られて視野が狭くなるし、イザコザがあったとき逃げ場がない。学校の役員にしても人数が少ないとやらなきゃいけない回数が多くて負担に感じる。	30代	女性
	子供は町の宝なので、子供を産み育てやすい町づくりをしていく。	60代	女性
	小学校の統一	40代	女性
	中学生のスクールバス完全化と町バスの運用見直し（空バスを走らせるならもっと使い方を考えるべき）	40代	女性
	中学校スクールバスの充実は実現できないようです。何度も同様の意見を伝えても改善ならないのはどうしてでしょうか？このアンケートも必要なのでしょうか。	60代	女性
	広くオシャレな子育て住宅をもっと増やせば若い子が残るのでは。 保育士をしています。保育士側の意見として、保育料の無償化は、保育士不足問題を解決してからにしてほしい。保育士の数に余裕がないから負担が大きく、若い子が長続きしない、余裕がない保育所に親は預けたいと思うだろうか。	50代	女性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
生涯学習・スポーツ 10件	生涯楽しんで学び続ける人の育つ町にしてほしい。	70歳以上 男性
	バスケットリングを公園などに作ってほしい。	30代 男性
	クロスカントリー以外で、スキーマの授業をしてほしい。	40代 男性
	町民が全体参加の運動会がしてみたい。	40代 男性
	美術館的な公開掲示（小学校）施設の活用、空き施設の利用を促進してほしい。	50代 男性
	地域住民が気軽に参加出来る行事（例えば地区対抗の輪投げ大会など）年寄りと子どもと一緒に楽しめる行事をやってもらいたい。 またたまたまNHKで放送（8月18日あしたが変わるトリセツショー）していたが、フレイル予防の運動をやっている町があり、非常に有意義な取り組みだったので、ぜひ真室川町でもやってもらいたい。東京大学の飯島勝矢教授が全国に広めている。機会があれば、参加し、又は協力したい。	60代 男性
	総合運動公園にある池をきれいにしてほしいです。総合運動公園で、犬が散歩できる場所を作ってほしいです。	10代 女性
	空家をリフォームして子育て一戸建住宅にし、鮭川のように一定期間住んだら買取が出来るようにすると子育て世代の定住者が増えるのかなと思う。また中高生の遊んだり集まったりする場所があってもいいと思う。他にはあまりない、ボルダリングやモルックなど出来る場所があっても良いかなと思う。	30代 女性
	若い人たちが活躍できるよう活動への支援や、町民が交流し学べる環境を整備して欲しい。	50代 男性
	スポーツなどの指導者育成、地域移行化したクラブに対しての準備資金の提供、協力が無さすぎる。親の心とお金の負担が多すぎる。	40代 女性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
行財政改革 8件	町民は、日々の生活品を求めに新庄までいかなければならない事が数多くあります。町の職員さんは少なからず他の自治体から来ています。合理的に考えて様々な手立てを実施するより、合併した方が良いと考えます。	70歳以上 男性
	消滅しないように市町村合併をすること。	50代 男性
	選挙の時だけうまいこと言っても何にもならない。国会議員なんて相手にしないのにがんばって応援しても意味があるかな？隅々まで手の届く優しい施策を考えてもらいたい。	70歳以上 男性
	役場職員はいろんな場面等でがんばっているのが良くわかります。しかし、町会議員のみ皆さんの動きは選挙の時位で4年後又という感じがちょっと考えさせられます。町は、町民、町職員、議員で作るものと思っています。残念ながら、一部欠けているので、良い町にはまだまだ遠いのかと思います。	60代 男性
	町民の声が町に届いていないと思う。	60代 男性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
行財政改革	人口が減る中で活躍している子供達がたくさんいます。SNS やネットのない高齢者などは広報などで知る事がほとんどです。それなのに広報での情報が少なく感じます。努力をし、結果を出し真室川町出身というアピールをしているのですから、本人からの報告がなくても調べたりして載せてあげるべきだと思います。やる前から決めつけず挑戦ある真室川町になってほしい。新しい考えや若者の意見を聞けないのなら何もかわらないと思います。	40代 女性
	知恵（アイディア）に富み、実行力のある行政職員町会議員のいる町	70歳以上 男性
	役場職員を見ていると、他市町村の方も増え、本当に町に愛着を持ち、良くしていこうという人が年々減っていると思う。単なる職業として勤め、真室川を知らないのに、町を良くできるのでしょうか。頭がいいだけではなく、気持ちのある人を採用して町を良くしてほしい。	50代 男性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
その他	未来のある若者のアンケートに思います。私達は子育ても学費、税金、生活すべて自分で払ってきたので生活は本当に厳しいものでした。地道に進んできて今まで生かしていただきました。残っている生命を生きてまいります。	70歳以上 女性
31件	ポイ捨てが多いと感じるので、少なくしていけたらいいんじゃないかなと思います。災害に強い町にできたらいいと思います。	10代 女性
	顔の見える役場から。目安箱的なちょっとした意見等をメモして入れられるものを置いては。これまで何度か相談事を持ち込んだことがありますが、すぐには動いてくれず、何を言ってもダメかとあきらめています。	70歳以上 女性
	町の中心部に活気がほしい	50代 女性
	DXの推進についても電子申請の推進や電子決済の推進により簡単なものは役場に行かなくても済むようにお願いします。また、行政情報提供についてもホームページやLINE等、前より格段に良くなりましたが、より一層の情報発信をよろしくお願いします。	60代 男性
	生活に必要な施設が充実している、交通の便が良い、治安が良い、災害に強い、生涯スポーツが楽しめる、健康増進や体力向上だけでなく精神的な充実や社会とのつながりをもたらすため	40代 女性
	人生の樂園を実行できる元気な町	60代 女性
	20年後には団塊の世代とそれに近い層はいなくなります。40年後には現在43歳以下の人、60年後には今の高校生しか残らないことが予想されます。そうすると真室川町が存続しません。それぐらいのスパンで地区や町の将来を考えるべきだと思います。このままでは、町や村の消滅という今まで予想もしなかった状況を迎えることとなります。これからの60年というはるか彼方と思いますが、60年前の1965年には朝永振一郎氏がノーベル賞を受賞し、アメリカ軍がベトナム北爆を開始したときだと思えばイメージしやすいかと思います。	70歳以上 男性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
その他	人口減少、経費削減よく耳にするようになりました。一方、こんなに便利に暮らしやすい町に整ったのですから、一人一人の私利私欲にとらわれず、健康に気をつけ、出来る範囲で環境を整えていければ美しい町を維持できるのではないかと思います。	60代 女性
	若者が不便だと思わないような町であってほしい。	20代 男性
	少子高齢化の流れは収まりそうもないですし、企業誘致も難しいと考えるので、いかにこの地域で生まれ育った子供たちをこの地域に残ってもらえるのか…を考えるしかないと思います。	60代 男性
	雪などのハンデもありますが一方で定住のための取り組みも進んでいると感じています。 真室川にいるからこそ受けられる施策をもっとPRしてもいいのではないかと思います。	50代 男性
	みんなが家族のような町にできたらいいと思います。心のゆとりのある町に出来たらもっと人口が増えるのではないかと思います。	60代 女性
	住みやすい町にしていきたいです。	60代 男性
	町の所得水準を公務員給与で補っているようにも見れる。	70歳以上 男性
	役場の駐車場で夕方、小学生ぐらいの子供が、3人くらいで自転車やスケボーに乗っていて危なかったです。地面に傷がつくし、車に傷をつけられる前に、注意看板でもあったらいいのでは？車庫の隣あたりがいいと思います。	50代 女性
	年間200~300人の人口減となると、あと20年位しか当町や金山町はもたないのではないかと懸念が強く感じられる。女子型企業の誘致や米の価格アップによる農業人口の増加があって、子育て支援策が生きてくるのではないかと思う。 町が主体では限度があり、国が主体となり地方再生に取り組むことを訴えていく必要がある。	70歳以上 男性
	とにかく仕事はあってほしい。お金に不自由したくない。	10代 男性
	この町は大好きです。人口の減少は止める事は出来ませんが、引き寄せる何かがあればいいのですが、年寄りの自分にはどうすることもできません	70歳以上 女性
	誰でも楽しめる、みんなと仲良く出来る町。安心して暮らせる町。	70歳以上 女性
	人間一人では生きては行けないし、ここで生きれない者はどこに行っても生きれないと思う。自分という個体がある限り、残った者同志で維持していくために知恵を出し合うこと。でなければ、自治体だって企業だって皆消えることです。最近、小集落から徐々に生活圏を無視されがちに感じられます。そこに住み続け生きている人がいることは素晴らしいことだと思います。これから産まれて来る子、青少年、若者を大切に自治体をはじめ挑戦して成長し続ける町であってほしいです。	70歳以上 女性

項目	町民の皆さんからの意見	年代・性別等
その他	他の自治体の人々が移住したいと思う町づくり、人づくり、環境づくり、裏の無い自治体、定住したいとだれもが認める、住みやすい平等な町づくりが透明性がある町。	70 歳以上 男性
	若者が地域から離れ、限界集落になるであろうと思うと、我が身は自分で先を考えていかねばと…今までもいろいろな対策を実行してきた事と思うが得策だけで人口は増えるとは考えられない！助成をするのであれば、平等に進めてもらえたらありがたい。働いている人が高い税金を払い、農家が優遇されている感じがする。	60 代 女性
	新庄市のベッドタウン的な町にして、人口を増やす、政策ではどうでしょうか？	60 代 男性
	日本唯一の減税特区になれば限界集落から脱出できると思う	40 代 男性
	現状維持で良い。	50 代 女性
	子供から老人まで真室川に住んでよかったと思える町。	50 代 女性
	時間の無駄、色々な面で難しい	60 代 女性
	厳しい自然環境ではあるが、治山治水をしっかり行っていくことで、自然から恩恵を受けられる町になってほしい。人も自然の一部であることを忘れないような教育を望む。	60 代 女性
	物価高騰、働い方改革、非課税世帯だけでなく低所得者支援、金銭的支援都度お願いしたいです商品券配布や給付金	50 代 男性
	未来に希望あふれる町に、若者が活躍できる場所にしてください。	60 代 女性